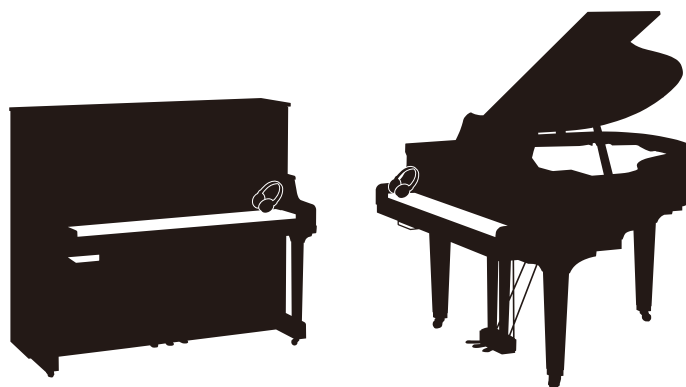


TransAcoustic™

TA3 TC3

SILENT *Piano*™

SH3 SC3



取扱説明書

ご使用前に必ず5～7ページの「安全上のご注意」をお読みください。

はじめに

このたびは、ヤマハ製品をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。この製品は、アコースティックピアノ（アップライトピアノ/グランドピアノ）に装着したコントロールユニットなどにより、アコースティックピアノの弾き心地はそのままに、内蔵の電子音を鳴らして演奏できます。また、音色の変更や曲の再生/録音など充実した機能を楽しめます。機能を十分に活用いただくため、ご使用前に本書をよくお読みください。また、いつでもご覧になれるところに大切に保管してください。

説明書について

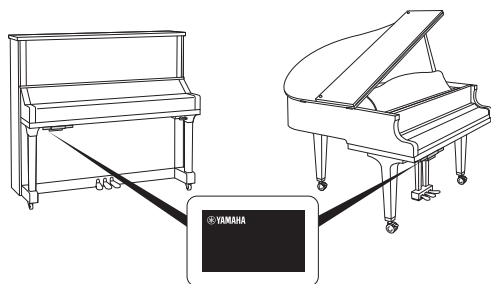
この製品には、以下の説明書が用意されています。

製品に付属

● TA3/TC3/SH3/SC3取扱説明書 (本書)

トランスアコースティック™ピアノ(TA3、TC3)およびサイレントピアノ™(SH3、SC3)として搭載された機能や使い方を説明しています。異なる複数機種についてまとめて1冊で説明しているため、お使いの製品にはない機能も含まれています。最初に下記の説明をご覧になり、お使いの機種に該当の機能があるか確認しながらお読みください。

機種名の確認方法



機種名は、図で示した位置にあるコントロールユニット底面の銘板または銘板付近に記載されています。機種によって使える機能が異なるため、まず機種名をご確認ください。

例: YUS1SH3




TA3、TC3、SH3、SC3のいずれかがトランスアコースティック™ピアノまたはサイレントピアノ™としての機種名です。

機能の有無の確認方法

本書では、機能ごとに以下のようなアイコンを付けて説明しています。この例では、この機能はTA3とTC3(トランスアコースティック™ピアノ)にはあり、SH3とSC3(サイレントピアノ™)にはないことを示しています。

例 **TA3** **TC3** SH3 SC3

表記上の決まり

 警告	「死亡する可能性または重傷を負う可能性が想定される」内容です。
 注意	「傷害を負う可能性が想定される」内容です。
 ご注意	「製品の故障、損傷や誤動作、データの損失の発生が想定される」内容です。
NOTE	知っておくといふ補足情報です。

● アップライトピアノ/グランドピアノ取扱説明書 (別冊)

アコースティックピアノに付属する説明書です。ピアノを使う際の安全上のご注意やお手入れ方法などを説明しています。本書と合わせて、必ずお読みください。



ウェブサイト提供

● スマートピアニスト ユーザーガイド

この製品と連携して使用できるスマートデバイスアプリ「スマートピアニスト」(57ページ)の接続方法や使い方を説明しています。

● コンピューターとつなぐ

楽器とコンピューターの接続方法などを説明しています。本書の59ページと合わせてお読みください。

● MIDIリファレンス

この製品のMIDIに関する資料です。

これらの説明書はヤマハのウェブサイトでご覧いただけます。

ヤマハ | 取扱説明書 - サポート・お問い合わせ

<https://jp.yamaha.com/support/manuals/>



付属品 (お確かめください)

- TA3/TC3/SH3/SC3取扱説明書 (本書) 1冊
- 楽譜集「クラシック名曲50選」 1冊 (TA3/SH3のみに付属)
- ヘッドホン 1本
- ヘッドホンハンガー 1個 (17ページ参照)
- ヘッドホンハンガー取り付けネジ 2本 (17ページ参照)
- 電源アダプター 1個
- 電源コード 1本

*ピアノ本体にも付属品があります。別冊のピアノの取扱説明書でご確認ください。

目次

はじめに	2	さまざまな機能を使う(ファンクション)	42
説明書について	2	ファンクションの基本操作	42
付属品(お確かめください)	3	ファンクション一覧	43
安全上のご注意	5	用語解説	50
使用上のご注意	7	設定を工場出荷時の状態に戻す(初期化)	51
お知らせ	8	5 ほかの機器と接続する	52
こんなことができます	9	USB機器を接続する([USB TO DEVICE]端子)	52
各部の名称	10	[USB TO DEVICE]端子で使用上の注意	52
1 電源の準備をする	12	USBフラッシュメモリーの取り扱いについて	52
2 演奏を楽しむ	15	USBフラッシュメモリーをフォーマット(初期化)する	53
アコースティックピアノとして演奏する (アコースティックモード)	15	外部オーディオ機器と接続する	54
ヘッドホンで電子音を聞きながら演奏する (消音モード)	16	楽器の電子音を外部機器から鳴らす (AUX OUT [R]/[L/L+R]端子) TA3 TC3 SH3 SC3	54
ヘッドホンハンガーを取り付ける	17	外部オーディオ機器での再生音を楽器から鳴らす ([AUX IN]端子)	54
響板から電子音を響かせて演奏する (トランスアコースティックモード) TA3 TC3 SH3 SC3	18	Bluetooth対応機器でのオーディオ再生音を楽器から 鳴らす(Bluetoothオーディオ機能)	55
アコースティックの音に電子音を重ねて鳴らす (レイヤーモード) TA3 TC3 SH3 SC3	19	スマートデバイスアプリ「スマートピアニスト」と 接続する	57
鍵盤演奏の音色(電子音)を選ぶ	20	USBケーブルで接続する	57
音色一覧	21	Bluetoothで接続する	57
3 曲(ソング)を再生/録音する	22	Wi-Fi(無線LAN)で接続する	58
ソングを再生する	22	コンピューターと接続する([USB TO HOST]端子)	59
ソング再生を操作する	25	オーディオデータを送受信する (USBオーディオインターフェース機能)	59
MIDIソングの再生パート(右手/左手)を指定する	26	オーディオループバックのオン/オフを設定する	60
演奏を録音する	27	MIDI機器と接続する(MIDI [IN]/[OUT]端子) TA3 TC3 SH3 SC3	60
基本の録音方法(MIDI録音/オーディオ録音)	27	資料	61
右手パートと左手パートを別々に録音する(MIDI録音)	29	メッセージ一覧	61
ユーザーソングを管理する	32	故障かな?と思ったら	63
内蔵メモリーのユーザーソングをUSBフラッシュメモ リーにコピーする	32	音色一覧	65
ユーザーソングを削除する	33	ソング一覧	68
ソングのファイル名に適した言語に設定する	35	音色デモソング	68
4 便利な機能を使う(UTILITY)	36	プリセットソング	69
メトロノームを使う	36	仕様	71
メトロノームを鳴らす/止める	36	索引	74
テンポを調節する	37	保証とアフターサービス	75
拍子を設定する	37		
メトロノームの音量を調節する	38		
リズムに合わせて演奏する	39		
リズムを再生する	39		
リズム一覧	40		
リズムの音量を調節する	41		

安全上のご注意




ご使用前に、必ずこの「安全上のご注意」をよくお読みください。

ここに示した注意事項は、製品を安全に正しくご使用いただき、お客様やほかの方々への危害や財産への損害を未然に防止するためのものです。必ずお守りください。

お子様がご使用になる場合は、保護者の方が以下の内容をお子様にご徹底くださいますようお願いいたします。お読みになったあとは、使用される方がいつでも見られる所に必ず保管してください。

記号表示について

この製品や取扱説明書に表示されている記号には、次のような意味があります。

	注意喚起を示す記号
	禁止を示す記号
	行為を指示する記号

「警告」「注意」について

誤った取り扱いをすると生じることが想定される内容を、危害や損害の大きさと切迫の程度を区分して掲載しています。



警告

「死亡する可能性または重傷を負う可能性が想定される」内容です。

電源



禁止

電源コードをストーブなどの熱器具に近づけたり、無理に曲げたり、傷つけたりしない。また、電源コードに重いものをのせない。電源コードが破損し、感電や火災の原因になります。



禁止

雷が鳴っているときは、本製品や電源プラグに触らない。感電の原因になります。



必ず実行

電源は必ず交流100Vを使用する。エアコンの電源など交流200Vのものがあります。誤って接続すると、火災、感電、または故障の原因になります。



必ず実行

電源アダプター/電源コードは、必ず付属のものを使用する。また付属の電源アダプター/コードをほかの機器に使用しない。火災、やけど、または故障の原因になります。



必ず実行

電源プラグを定期的に確認し、ほこりが付着している場合はきれいに拭き取る。ショートして火災や感電の原因になります。



必ず実行

電源プラグは、コンセントの奥まで確実に差し込む。差し込みが不十分のまま使用すると感電したり、プラグにほこりが堆積したりして火災ややけどの原因になります。



必ず実行

電源プラグは、見える位置で、手が届く範囲のコンセントに接続する。万一の場合、電源プラグを容易に引き抜くためです。電源を切った状態でも電源プラグをコンセントから抜かないかぎり電源から完全に遮断されません。



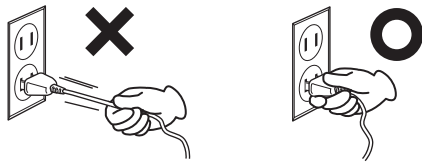
禁止

たこ足配線をしない。音質が劣化したり、コンセント部が異常発熱して火災の原因になります。



必ず実行

電源プラグを抜くときは、電源コードを持たずに、必ず電源プラグを持って引き抜く。電源コードが破損して、感電や火災の原因になることがあります。



電源プラグを抜く

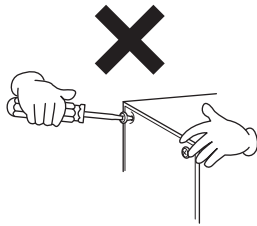
長期間使用しないときは、必ずコンセントから電源プラグを抜く。火災や故障の原因になります。

分解禁止



禁止

本製品を分解したり改造したりしない。感電や火災、けが、または故障の原因になります。本製品の内部には、お客様が修理や交換できる部品はありません。



水に注意



禁止

- 雨天時の屋外など湿気の多いところや水がかかるところで使用しない。
- 本製品の上に花瓶や薬品など液体の入ったものを置かない。
- 電源アダプターは、室内専用のため屋外では使用しない。

内部に水などの液体が入ると、火災や感電、または故障の原因になります。



禁止

ぬれた手で電源プラグを抜き差ししない。感電のおそれがあります。

火に注意



禁止

本製品の近くで、火気を使用しない。火災の原因になります。

ワイヤレス機器



禁止

- 医療機器の近くなど、電波の使用が制限された区域で使用しない。
- 心臓ペースメーカーや除細動器の装着部分から15cm以内で使用しない。

本製品が発生する電波により、動作に影響があるおそれがあります。

接続



必ず実行

接続する機器のマニュアルを必ず読み、記載されている内容に従う。

従わない場合、火災、発熱、破裂、故障の原因になる可能性があります。

異常に気づいたら



必ず実行

下記のような異常が発生した場合、すぐに電源を切り、電源プラグをコンセントから抜く。

- 電源コード/プラグが破損した場合
- 製品から異常なおい煙が出た場合
- 製品の内部に水や異物が入った場合
- 使用中に音が出なくなった場合
- 製品に亀裂、破損がある場合

そのまま使用を続けると、感電や火災、または故障のおそれがあります。至急、お買い上げの販売店または巻末のヤマハ修理ご相談センターに点検や修理をご依頼ください。



注意 「傷害を負う可能性が想定される」内容です。

設置



必ず実行

ピアノの設置や移動の際は専門家に相談する。また、移動時には必ずすべての接続ケーブルを外す。

ピアノは重量物です。移動の際に腰を痛めたり床を傷つけたりするおそれがあります。また、ケーブルを接続したままだと、ケーブルを傷めたりお客様やほかの方々が転倒したりするおそれがあります。

接続



必ず実行

ほかの機器と接続する場合は、すべての電源を切った上で行う。また、電源を入れたり切ったりする前に、必ずすべての機器の音量(ボリューム)を最小にする。

聴覚障害、感電または機器の損傷の原因になります。



必ず実行

演奏を始める前に機器のボリュームを最小にし、演奏しながら徐々にボリュームを上げて、適切な音量にする。
聴覚障害または機器の損傷の原因になります。

取り扱い



禁止

ボタンやスイッチ、入出力端子などに無理な力を加えない。
本体が破損したり、お客様やほかの方々がかげがをしたりする原因になります。



禁止

小さな部品は、乳幼児の手の届くところに置かない。
お子様が誤って飲み込むおそれがあります。



禁止

大きな音量で長時間使用しない。
聴覚障害の原因になります。特にヘッドホンを使用する場合はご注意ください。万一、聴力低下や耳障りを感じた場合は、専門の医師にご相談ください。



必ず実行

本製品をお手入れをするときは、必ずコンセントから電源プラグを抜く。
感電の原因になります。

- データが破損したり失われたりした場合の補償はいたしかねますので、ご了承ください。
- 不適切な使用や改造により故障した場合の保証はいたしかねます。

使用後は、必ず電源を切りましょう。

[⓪](スタンバイ/オン)スイッチを切った状態(電源ランプが消えている)でも微電流が流れています。[⓪](スタンバイ/オン)スイッチが切れているときの消費電力は、最小限の値で設計されています。この製品を長時間使用しないときは必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。

高調波電流規格 JIS C 61000-3-2 適合品

(DMI-10)

使用上のご注意

製品の故障、損傷や誤動作、データの損失を防ぐため、以下の内容をお守りください。

■ 製品の取り扱いに関する注意

- 本製品をインターネットに接続する場合は、セキュリティを保つため必ずルーターなどを経由し接続してください。經由するルーターなどには適切なパスワードを設定してください。電気通信事業者(移动通信会社、固定通信会社、インターネットプロバイダーなど)の通信回線(公衆回線LANを含む)には直接接続しないでください。
- テレビやラジオ、ステレオ、携帯電話など他の電気製品の近くで使用しないでください。楽器本体またはテレビやラジオなどに雑音が生じる場合があります。
- スマートフォン、タブレット端末などのスマートデバイスのアプリと一緒に使用する場合は、通信によるノイズを避けるためスマートデバイスの機内モードをオンにしてお使いいただくことをおすすめします。楽器と無線で接続するときは、スマートデバイスのWi-FiやBluetooth®の設定がオンになっていることを確認してください。
- 直射日光のあたる場所(日中の車内など)やストーブの近くなど極端に温度が高くなる場所、逆に温度が極端に低い場所、また、ほこりや振動の多いところで使用しないでください。本製品が変形したり、内部の部品が故障したり、動作が不安定になったりする原因になります。

■ 製品のお手入れに関する注意

- お手入れの際は、乾いた柔らかい布、または水を含ませた柔らかい布を固くしぼってご使用ください。ベンジンやシンナー、アルコール、洗剤、化学ぞうきんなどを使用すると、変色/変質する原因になりますので、使用しないでください。

■ データの保存に関する注意

- 本製品の一部のデータ(51ページ)は自動的に保存され、電源を切っても消えません。ただし保存されたデータは故障や誤操作などのために失われることがあります。大切なデータは、USBフラッシュメモリー/コンピューターなどの外部機器に保存してください(32、59ページ)。
- データを保存したUSBフラッシュメモリーの万一の事故に備えて、大切なデータは予備のUSBフラッシュメモリー/コンピューターなどの外部機器にバックアップとして保存されることをおすすめします。

お知らせ

■ データの著作権に関するお願い

- 本製品に搭載されている「コンテンツ」*1の著作権は、ヤマハ(株)もしくはその著作権者に帰属します。私的使用のための複製など著作権法上認められている場合を除いて、権利者に無断で「複製または転用」*2することは禁じられています。ご使用時には、著作権の専門家にご相談されるなどのご配慮をお願いします。

なお、製品本来の使用を通して、上記コンテンツを使用した音楽制作や演奏を行い、それらを録音して配布する場合、配布方法が有償、無償を問わずヤマハ(株)の許諾は必要ありません。

*1:「コンテンツ」には、コンピュータープログラム、サウンドデータ、伴奏スタイルデータ、MIDIデータ、WAVEデータ、音声記録データ、楽譜や楽譜データなどを含みます。

*2:「複製または転用」には、この製品に内蔵または同梱されたコンテンツそのものを取り出すこと、もしくは酷似した形態で記録/録音して配布することを含みます。

■ 製品に搭載されている機能/データに関するお知らせ

- 内蔵曲は、曲の長さやイメージが原曲と異なる場合があります。

■ 取扱説明書の記載内容に関するお知らせ

- この取扱説明書に掲載されているイラストは、すべて説明のためのものです。
- Windowsは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。
- Wi-FiはWi-Fi Allianceの登録商標です。
- Bluetooth® ワードマークおよびロゴは登録商標であり、Bluetooth SIG, Inc. が所有権を有します。ヤマハ株式会社は使用許諾の下でこれらのマークおよびロゴを使用しています。



- MIDIは社団法人音楽電子事業協会(AMEI)の登録商標です。
- その他、本書に記載されている会社名および商品名等は、各社の登録商標または商標です。

機種名(品番)、製造番号(シリアルナンバー)、電源条件などの情報は、製品の底面にある銘板または銘板付近に表示されています。製品を紛失した場合などでもご自身のものを特定していただけるよう、機種名と製造番号については以下の欄にご記入のうえ、大切に保管していただくことをお勧めします。

機種名

製造番号

■ Bluetooth®に関するお知らせ

Bluetoothとは、2.4 GHz帯の電波を利用して、対応する機器と無線で通信を行うことができる技術です。

■ Bluetooth通信の取り扱いについて

- Bluetooth対応機器が使用する2.4 GHz帯は、さまざまな機器が共有する周波数帯です。Bluetooth対応機器は、同じ周波数帯を使用する機器からの影響を最小限に抑えるための技術を採用していますが、他の機器の影響によって通信速度や通信距離が低下することや、通信が切断されることがあります。
- 通信機器間の距離や障害物、電波状況、機器の種類により、通信速度や通信距離は異なります。
- 本製品はすべてのBluetooth機能対応機器とのワイヤレス接続を保証するものではありません。

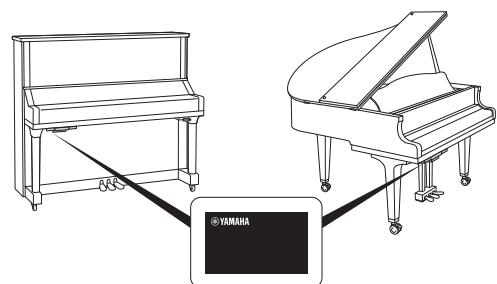
■ 製品の取り扱いに関する注意

- 本製品は、日本国内でのみ使用できます。
- 本製品は、日本電波法に基づく認証を受けた無線機器を内蔵しております。従って、本製品を使用するときに無線局の免許は不要です。ただし、本製品に以下の行為を行うと法律で罰せられることがあります。
 - 本製品を分解/改造する
 - 本体底面の銘板をはがしたり、消したりする

■ 無線に関するご注意

本製品の使用周波数帯では、電子レンジなどの産業・科学・医療用機器のほか、工場の製造ライン等で使用されている移動体識別用の構内無線局(免許を要する無線局)および特定小電力無線局(免許を要しない無線局)並びにアマチュア無線局(免許を要する無線局)が運用されています。

- この機器を使用する前に、近くで移動体識別用の構内無線局および特定小電力無線局並びにアマチュア無線局が運用されていないことを確認してください。
- 万一、この機器から移動体識別用の構内無線局に対して有害な電波干渉の事例が発生した場合には、速やかに使用場所を変えるか、又は機器の運用を停止(電波の発射を停止)してください。



銘板はコントロールユニットの底面にあります。

(1003-M06_plate_bottom_ja_01)

こんなことができます

トランスアコースティック™ピアノとは

ヤマハのトランスアコースティック技術による音量調節機能を備えたアコースティックピアノです。トランスアコースティックモードでは、ピアノの響板がスピーカーとなってピアノ全体から電子音を響かせることで、アコースティックピアノならではの自然な音を全身で感じつつ、音量を調節しながら演奏を楽しめます。通常のアコースティックピアノとして演奏することはもちろん、下記のサイレントピアノ™と同様、消音モードに切り替えてヘッドホンから音を聞きながら演奏することも可能です。

サイレントピアノ™とは

ヤマハ独自の消音機能を備えたアコースティックピアノです。消音モードにすると、鍵盤を押したときにハンマーの動きが打弦の直前に止まるので、ピアノ本体から音は鳴りません。センサーが鍵盤の動きを読み取り、その情報が電子音源に伝わることにより、ヘッドホンから電子音が聞こえます。普段はアコースティックピアノとして、周囲に配慮して音を消したいときは消音モードで、いつでもピアノの演奏を楽しめます。

トランスアコースティック™ピアノ、サイレントピアノ™ともに、以下のような便利な機能もありますのでご活用ください。



曲のイメージに合わせて選べるCFXグランドピアノなどさまざまな音色 ▶▶ 20ページ

きらびやかな高音から重厚な低音まで、幅広い芳醇な音色を特徴とするヤマハ最高峰コンサートグランドピアノCFX。繊細で温かみのあるウィンナートーンで知られるベーゼンドルファー社*のインペリアル。これらをはじめとしたさまざまな音色を搭載しています。曲のイメージに合った音色で演奏できます。

*ベーゼンドルファー社はヤマハのグループ会社です。



ヘッドホンから流れる、包み込まれるような響き ▶▶ 16ページ

CFXとベーゼンドルファーの音色では、バイノーラルサンプリングにより、ヘッドホンを通して音を聞いても、ピアノ本体から音が響いてくるような臨場感を楽しめます。その他のピアノ音色でも自然な音の広がりを感じられます。



練習に役立つ内蔵曲 ▶▶ 22ページ

有名なクラシック曲を50曲内蔵しています。聞いて楽しむのはもちろん、左手パートだけを再生して、右手パートを自分で弾いて練習することもできます。



演奏を録音/再生 ▶▶ 27ページ

演奏を楽器本体やUSBフラッシュメモリーに録音し、再生できます。録音した演奏を客観的に聞き返すことで、上達につながります。



シンプルなりズムとベース音で演奏を華やかに演出 ▶▶ 39ページ

シンプルなりズムが多数搭載されています。打楽器音とベース音の再生に合わせて、華やかに鍵盤を演奏できます。



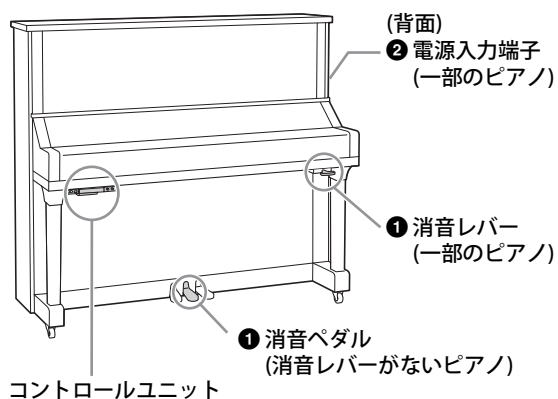
スマートデバイスと連携してもっと便利に ▶▶ 57ページ

スマートフォンやタブレット端末などのスマートデバイスと接続して楽器に対応のアプリ「スマートピアニスト」をご利用になれます。音色の選択やメトロノームのオン/オフなどを直感的に操作したり、スマートデバイス上に内蔵曲の譜面を表示したりできます。

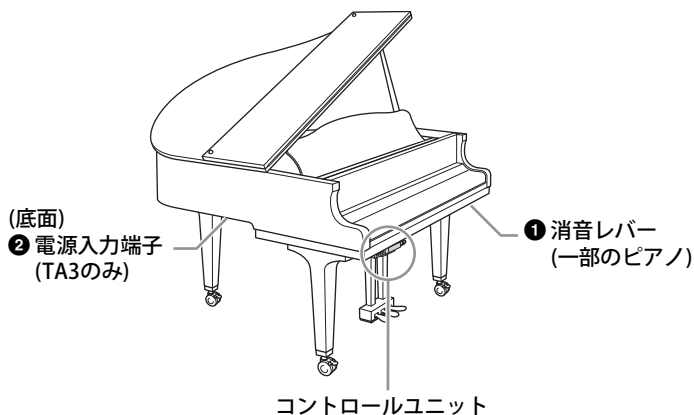
各部の名称

トランスアコースティック™ピアノまたはサイレントピアノ™としての機能は、コントロールユニットを使って操作します。また、ピアノによっては、消音レバーまたは消音ペダル(まん中のペダル)も使います。

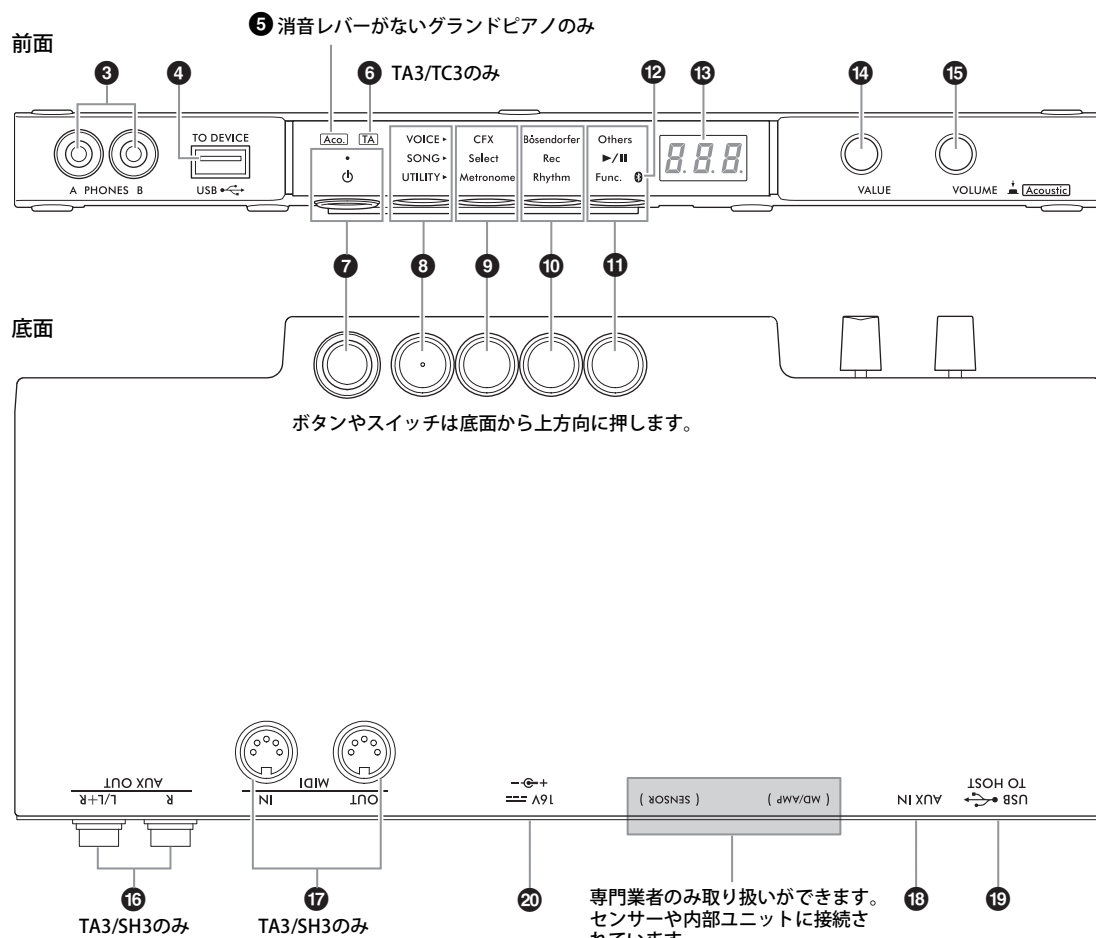
アップライトピアノ



グランドピアノ



コントロールユニット



① 消音レバー /消音ペダル(16ページ)

アコースティックピアノの音を鳴らす/鳴らさないを切り替えます。アップライトピアノでは、消音レバーまたは消音ペダルが付いています。グランドピアノの多くにはどちらも付いておらず、一部のピアノのみに消音レバーが付いています。

② 電源入力端子(12、13ページ)

付属の電源コード/アダプターを接続します。ピアノによってはこの端子はありません。その場合は⑳の端子を使います。

フォーンズ

③ [PHONES]端子(16ページ)

ヘッドホンを接続します。

トゥー デバイス

④ [USB TO DEVICE]端子(52ページ)

USBフラッシュメモリーやUSB無線LANアダプター(別売)を接続します。

⑤ [Aco.]ランプ(15ページ)

(消音レバーがないグランドピアノのみ)アコースティックモードのときに点灯します。

⑥ [TA]ランプ(18、19ページ)

TA3 TC3 SH3 SC3

トランスアコースティックモードまたはレイヤーモードのときに点灯します。

⑦ [φ] (スタンバイ/オン)スイッチ(13ページ)

電源のスタンバイ/オンを切り替えます。

⑧ メニューボタン

ボタンを押すたびに、VOICE/SONG/UTILITYが順に選ばれ、オレンジ色に点灯します。

ボイス

• VOICE (20ページ)

音色(ボイス)を選びます。

ソング

• SONG (22ページ)

内蔵曲の再生や演奏の録音など、曲(ソング)に関する操作をします。

ユーティリティ

• UTILITY (36ページ)

メトロノームやリズムを鳴らしたり、各種設定をします。

⑨ ボタン 1 / ⑩ ボタン 2 / ⑪ ボタン 3

メニューボタンでVOICE、SONGまたはUTILITYを選ぶことにより、各ボタンに異なる機能が割り当てられ、操作できます。

Bluetooth

⑫ Bluetoothランプ(56ページ)

Bluetooth機能がオンのときに点灯します。Bluetooth対応機器との接続中は青、未接続のときはUTILITY表示中のみ白で点灯します。

⑬ ディスプレイ

音色やソングの番号、設定値、メッセージなどを表示します。メッセージの一覧は61ページをご覧ください。

各種設定値



メッセージ



バリュー

⑭ [VALUE]つまみ

項目を選んだり、設定を変更したりします。

ボリューム

⑮ [VOLUME]つまみ

つまみを回すと音量を調節できます。消音モードやトランスアコースティックモード、レイヤーモードでの演奏(15ページ)のほか、外部機器(54、59、60ページ)への出力音の音量も調節できます。グランドピアノの場合、つまみを押すたびにアコースティックモード(15ページ)のオン/オフを切り替えられます。

アウト

⑯ AUX OUT [R]/[L/L+R]端子(54ページ)

TA3 TC3 SH3 SC3

スピーカーなどオーディオ機器と接続して、この楽器から接続した機器に音声を出力します。

イン アウト

⑰ MIDI [IN]/[OUT]端子(60ページ)

TA3 TC3 SH3 SC3

MIDI機器を接続します。

イン

⑱ [AUX IN]端子(54ページ)

携帯音楽プレーヤーなどオーディオ再生機器と接続して、接続した機器での再生音をこの楽器に入力します。

トゥー ホスト

⑲ [USB TO HOST]端子(59ページ)

スマートフォンやタブレット端末などのスマートデバイスやコンピューターと接続します。

⑳ 電源入力端子

付属の電源コード/アダプターを接続します(13ページ)。②の端子があるピアノでは、⑳の端子は専門業者のみが取り扱えます。納入時にプラグが接続されています。

1

電源の準備をする

トランスアコースティック™ピアノやサイレントピアノ™の機能を楽しむには、電源を入れる必要があります。アコースティックピアノとして使う場合は、電源を入れる必要はありません。

1 電源アダプターと電源コードを接続します。

製品によって接続方法が異なります。

⚠ 警告

- 電源アダプターは、必ず指定のもの(72ページ)をご使用ください。指定と異なる電源アダプターを使用すると、故障、発熱、火災などの原因になります。このような場合は、保期間内でも保証いたしかねます。
- 製品はコンセントの近くに設置し、異常を感じた場合にはすぐに電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。

NOTE

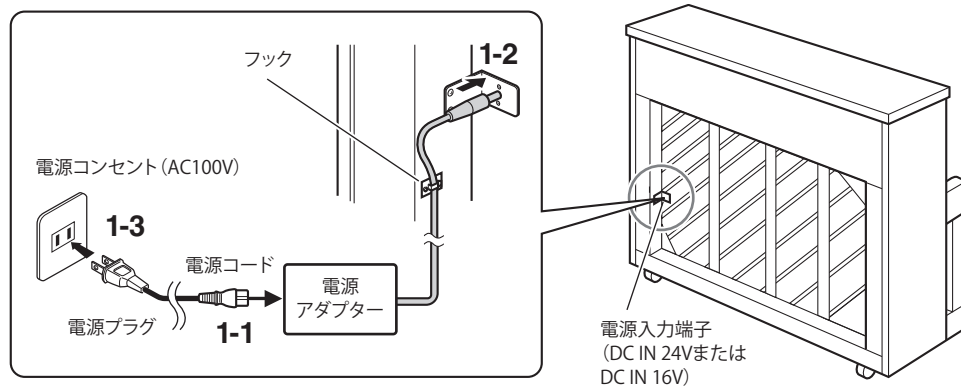
電源アダプターを外すときは、電源を切ってから、逆の手順で行ってください。

・アップライトピアノの場合

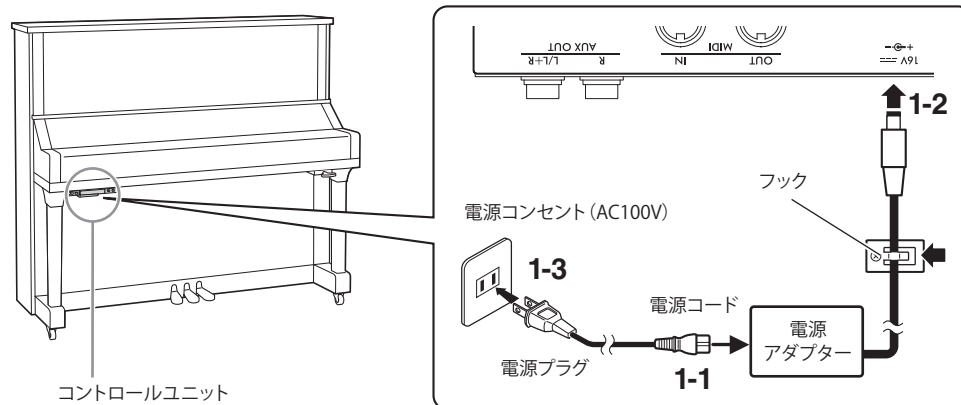
TA3 TC3 SH3 SC3

ピアノ背面にある電源入力端子(DC IN 24VまたはDC IN 16V)に、図の順序で接続します。余ったコードはフックに留めておけます。

背面に電源入力端子があるピアノ



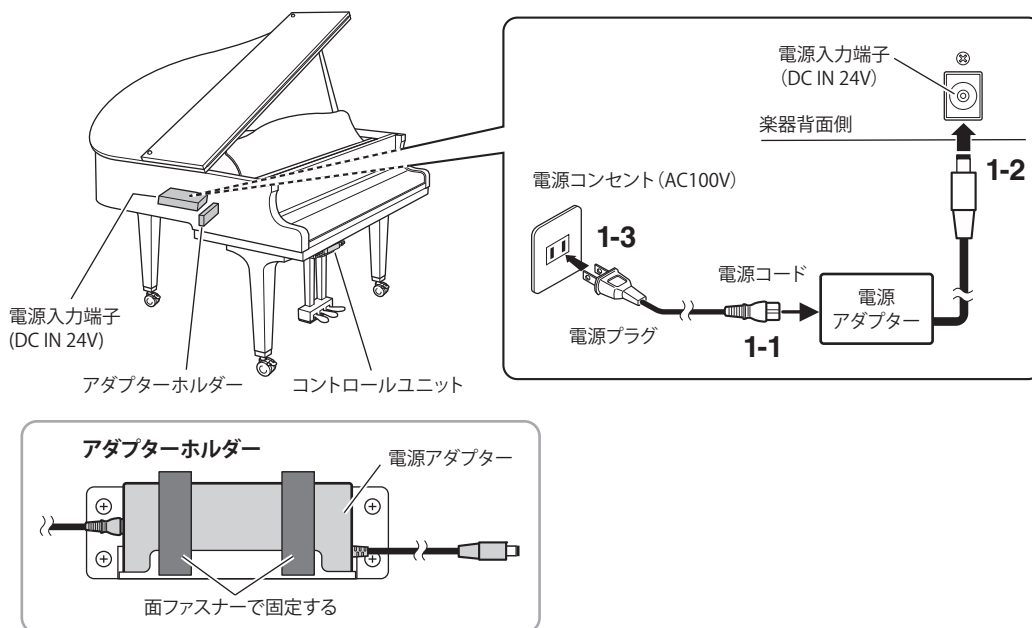
背面に電源入力端子がないピアノ



1 ・グランドピアノの場合

TA3 TC3 SH3 SC3

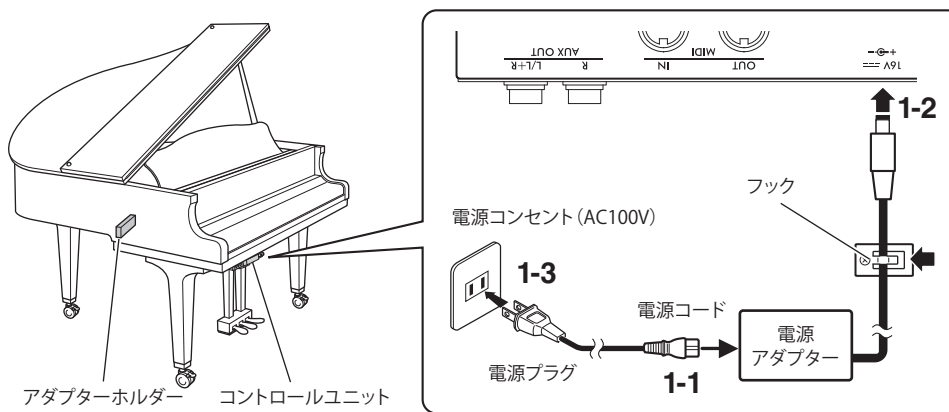
ピアノ底面にある電源入力端子(DC IN 24V)端子に、図の順序で接続します。必要に応じて、電源アダプターをアダプターホルダーに固定できます。アダプターホルダーはコントロールユニットの後方にあります。



2 ・グランドピアノの場合

TA3 TC3 SH3 SC3

コントロールユニットにある電源入力端子(DC IN 16V)に、図の順序で接続します。必要に応じて、電源アダプターをアダプターホルダー(上図)に、余ったコードをフックに固定できます。アダプターホルダーやフックは、コントロールユニットの後方にあります。

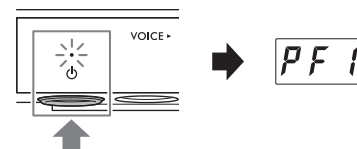


2 コントロールユニットにある [⏻] (スタンバイ/オン) スイッチを押して電源を入れます。

電源ランプが点灯し、ディスプレイに表示が現れます。電源を切るには、もう一度スイッチを押します。

ご注意

電源を入れるときは、[⏻] (スタンバイ/オン) スイッチ以外は操作しないでください。鍵盤やボタンを押したり、ペダルを踏んだりすると、楽器が誤動作する原因になります。



⚠ 注意

電源を切った状態でも微電流が流れています。この楽器を長時間使用しないときや落雷のおそれがあるときは、必ずコンセントから電源プラグを抜いてください。

オートパワーオフ機能

TA3 TC3 SH3 SC3

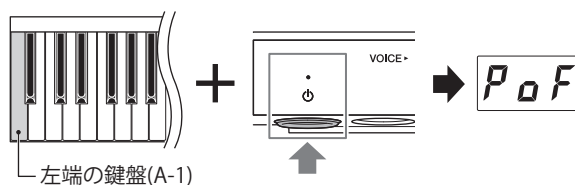
この楽器は電源の切り忘れによる無駄な電力消費を防ぐため、オートパワーオフ機能を搭載しています。これは、この楽器が操作されない状態が約30分続くと自動的に電源が切れる機能です。初期設定では、この機能はオン(有効)です。

ご注意

ソングの再生中や外部機器との通信中は、電源は自動的に切れません。使用後は、[⏻](スタンバイ/オン)スイッチを押してこの楽器の電源を切ってください。

オートパワーオフ機能をオフ(無効)にするには

左端の鍵盤を押したまま電源を入れます。「PoF」と表示され、オートパワーオフ機能がオフの状態です。



NOTE

メニューボタンを押したまま電源を入れることで、オートパワーオフ機能をオフにすることもできます。電源が入ったままオートパワーオフ機能のオン/オフを切り替えるには、ファンクションF8.1 (49ページ)で設定します。

この楽器は、シーンに合わせて以下のモードでの演奏をお楽しみいただけます。

TA3 TC3 SH3 SC3

- **アコースティックモード:** 通常のアコースティックピアノとして演奏します(下記)。
- **消音モード:** アコースティックピアノの音を消して、ヘッドホンから電子音を聞きながら演奏します(16ページ)。

TA3 TC3 SH3 SC3

- **トランスアコースティックモード:** トランスアコースティック技術により、ピアノの響板から電子音を響かせて演奏します(18ページ)。アコースティックピアノの音は鳴らしません。
- **レイヤーモード:** アコースティックピアノの音に、電子音を重ねて演奏します(19ページ)。

消音モード、トランスアコースティックモード、レイヤーモードでは、コントロールユニットに内蔵された音色を使って演奏したり、演奏を録音したり、さまざまな機能を使えます。これらの機能は電源が入っているときのみ使えます。アコースティックモードでは、電源を入れる必要はありません。

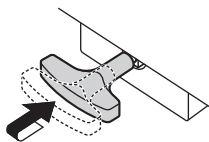
アコースティックピアノとして演奏する(アコースティックモード)

TA3 TC3 SH3 SC3

通常のアコースティックピアノとして演奏する場合は、この楽器の電源を入れる必要はありません。電源を切った状態で演奏してください。アップライトピアノや消音レバーがあるグランドピアノでは、消音レバーまたは消音ペダルが以下の状態であることを確認してください。

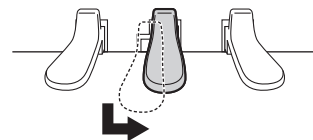
◆ 消音レバーがあるピアノの場合

消音レバーを手前に引いて奥に戻します。



◆ 消音レバーがないアップライトピアノの場合

消音ペダル(真ん中のペダル)を踏みながら右側にスライドさせて元の位置に戻します。



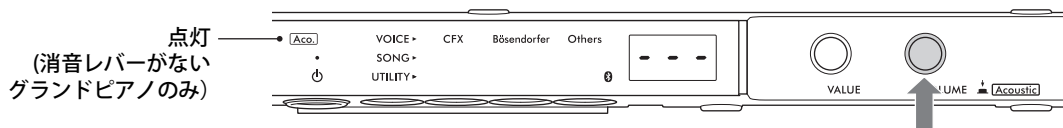
◆ 消音レバーがないグランドピアノの場合

特に操作は必要ありません。

電源が入ったままアコースティックピアノの音で演奏するには、[VOLUME]つまみを押して、電子音が鳴らない状態にしてください。

消音レバーのないグランドピアノでは、[Aco.]ランプが点灯し、自動的に音色が「---」(20ページ)に切り替わります。

消音レバーや消音ペダルがあるピアノでは、音色が「---」に切り替わったことを確認してから、消音レバーまたは消音ペダルを上記の状態にしてください。'



NOTE

もう一度[VOLUME]つまみを押すと、電子音が鳴るようになり、消音モードで演奏できます。詳しくは16ページをご覧ください。

ヘッドホンで電子音を聞きながら演奏する(消音モード)

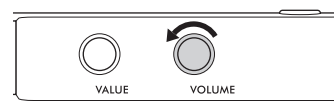
TA3 TC3 SH3 SC3

アコースティックピアノの音を消して、ヘッドホンから電子音を聞きながら演奏します。ピアノ本体からは音が鳴らず、センサーにより読み取られた鍵盤の動きが電子音源に伝えられ、ヘッドホンから電子音が聞こえます。

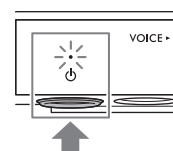
NOTE

消音モードで演奏しているときでもアコースティックピアノ特有の打鍵音は残ります。

1 [VOLUME]つまみを左に回して音量を最小にします。



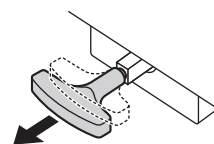
2 [⏻] (スタンバイ/オン)スイッチを押して電源を入れます。



3 以下のいずれかの操作により、アコースティックピアノの音が鳴らない状態(消音モード)にします。

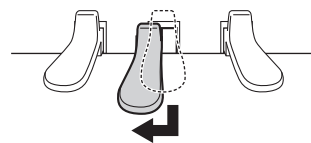
◆ 消音レバーがあるピアノの場合

消音レバーを、カチッと音が聞こえるまで手前に引きます。



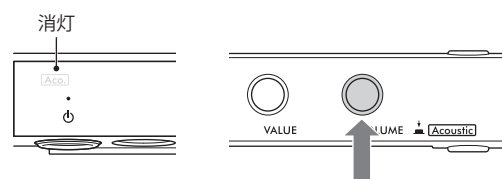
◆ 消音レバーがないアップライトピアノの場合

消音ペダル(真ん中のペダル)を踏みながら左側にスライドさせ、その位置で固定させます。



◆ 消音レバーがないグランドピアノの場合

[Aco.]ランプが消灯していることを確認します。点灯している場合は、[VOLUME]つまみを押しして消灯させます。



4 [PHONES]端子にヘッドホンを接続します。

ヘッドホンは2つの端子に1本ずつ接続できます。1本だけ接続する場合は、どちらの端子を使ってもかまいません。

⚠ 注意

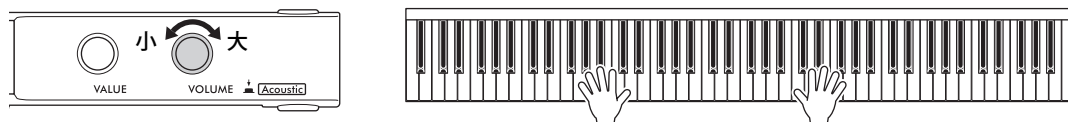
大きな音量で長時間ヘッドホンを使用しないでください。聴覚障害の原因になります。

⚠ ご注意

ヘッドホンのケーブルを無理に引っ張ったり、プラグに極端な力を加えたりしないでください。この楽器やヘッドホンが破損して、音が正しく出なくなるおそれがあります。



5 鍵盤を弾きながら [VOLUME] つまみを回して音量を調節します。



ヘッドホンでも自然な音の広がりを再現する

(バイノーラルサンプリングとステレオフォニックオプティマイザー)

この楽器では、ヘッドホン使用時に臨場感のある音をお楽しみいただくため、以下の2つの方式を採用しています。

■ バイノーラルサンプリング

バイノーラルサンプリングとは、演奏者の耳と同じ位置に専用のマイクを備え付け、聞こえてくるピアノの音をそのままサンプリングする方式です。ヘッドホンを通して聞いても、あたかもピアノ本体から音が響いてくるような臨場感をお楽しみいただけます。長時間の演奏でも耳が疲れにくく自然に演奏できます。CFXグランド(PF1)またはベーゼンドルファー (PF2)の音色(20ページ)を選んでいるときにヘッドホンを接続すると、バイノーラルサンプリングの音に切り替わります。

サンプリングとは

アコースティック楽器の音を録音して電子楽器に組み込む技術のことです。

■ ステレオフォニックオプティマイザー

ステレオフォニックオプティマイザーは、ヘッドホン使用時に自然な音の広がりを再現するエフェクトです。CFXグランドとベーゼンドルファー以外のピアノ音色(PF3~PF5)を選んでいるときにヘッドホンを接続すると、ステレオフォニックオプティマイザーがかかり、臨場感のある演奏を楽しめます。

初期設定では、この機能はオンです。これはヘッドホン使用時に適した機能のため、以下の場合はこの機能をオフにして使用することをおすすめします。オン/オフは、ファンクションF4.1で設定できます(46ページ)。

- 接続した外部機器でこの楽器の音を鳴らしながら(54ページ)、この楽器に接続したヘッドホンでも音を聞く場合
- ヘッドホンで音を聞きながらオーディオ録音(27ページ)し、その曲をヘッドホン以外から聞く場合

NOTE

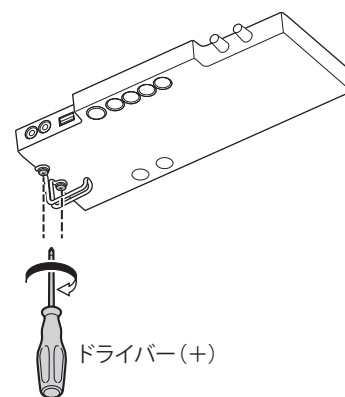
外部機器を接続する前に、必ず「ほかの機器と接続する」(52ページ)をお読みください。

ヘッドホンハンガーを取り付ける

付属のネジ(2個)でコントロールユニット底面に取り付けてください。

ご注意

ヘッドホンハンガーにヘッドホン以外のものを掛けしないでください。コントロールユニットまたはヘッドホンハンガーが破損する場合があります。



響板から電子音を響かせて演奏する (トランスアコースティックモード)

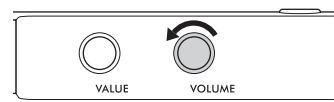
TA3 TC3 SH3 SC3

トランスアコースティック技術により、ピアノの響板から電子音を響かせて演奏します。アコースティックピアノの音は鳴らしません。

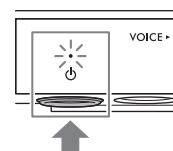
NOTE

トランスアコースティックモードで演奏しているときでもアコースティックピアノ特有の打鍵音は残ります。

1 [VOLUME]つまみを左に回して音量を最小にします。



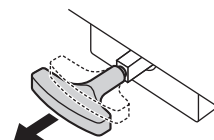
2 [φ] (スタンバイ/オン) スイッチを押して電源を入れます。



3 以下のいずれかの操作により、アコースティックピアノの音が鳴らない状態 (消音モード) にします。

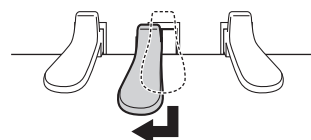
◆ 消音レバーがあるピアノの場合

消音レバーを、カチッと音が聞こえるまで手前に引きます。



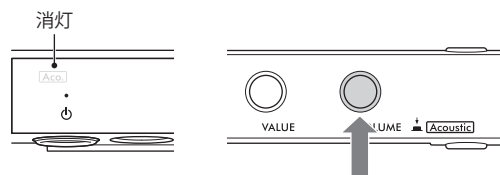
◆ 消音レバーがないアップライトピアノの場合

消音ペダル(真ん中のペダル)を踏みながら左側にスライドさせ、その位置で固定させます。



◆ 消音レバーがないグランドピアノの場合

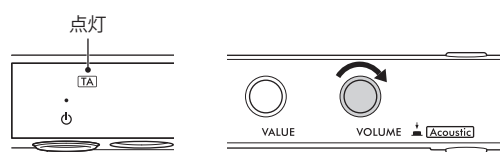
[Aco.]ランプが消灯していることを確認します。点灯している場合は、[VOLUME]つまみを押しして消灯させます。



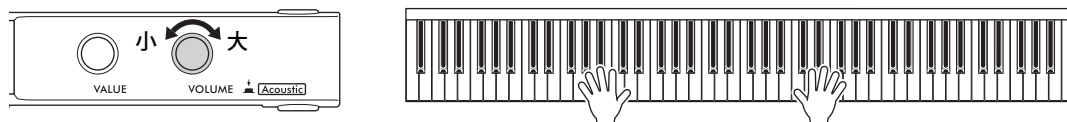
4 [VOLUME]つまみを右へ回すと [TA] ランプが点灯し、トランスアコースティックモードになります。

NOTE

音量が最小の場合や、音色が「---」になっている場合(20ページ)、ヘッドホンが接続されている場合は、トランスアコースティックモードにできません。「---」以外の音色を選び、ヘッドホンを抜いてください。



5 鍵盤を弾きながら [VOLUME] つまみを回して音量を調節します。



アコースティックの音に電子音を重ねて鳴らす (レイヤーモード)

TA3 TC3 SH3 SC3

レイヤーモードにすることで、アコースティックピアノの音に電子音を重ねて演奏することができます。レイヤーモードにするには、18ページのトランスアコースティックモードの手順に従い、手順3では以下のようにアコースティックピアノの音が鳴る状態にしてください。また音色(20ページ)は、「---」以外を選んでください。

3 ◆ 消音レバーがあるピアノの場合

消音レバーをアコースティックモードの位置に戻してください(15ページ)。

◆ 消音レバーがないアップライトピアノの場合

消音ペダルをアコースティックモードの位置に戻してください(15ページ)。

◆ 消音レバーがないグランドピアノの場合

[VOLUME]つまみを押しして[Aco.]ランプを点灯させてください。

NOTE

- この製品は十分に調律されたうえで出荷されておりますが、温度や湿度など環境により、徐々に調律がずれてきます。電子音とアコースティック音の音程がずれていると感じる場合は、ピアノ本体を調律するか、ファンクションF3.4で電子音のピッチを調整してください(45ページ)。調律は専門の技術者にご依頼ください。
- アコースティックピアノの音量は、[VOLUME]つまみでは調節できません。

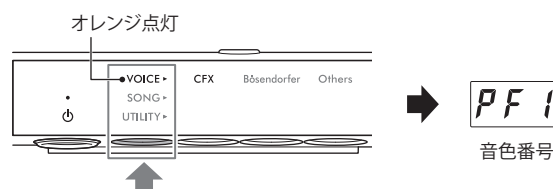
鍵盤演奏の音色(電子音)を選ぶ

TA3 TC3 SH3 SC3

消音モード、トランスアコースティックモード、レイヤーモードでは、内蔵されているさまざまな電子音で演奏できます。選べる音色は、「音色一覧」(21ページ)をご覧ください。

1 メニューボタンをくり返し押して、[VOICE]ランプをオレンジ色に点灯させます。

選ばれている音色の番号が表示されます。



2 [VALUE]つまみ、またはボタン1~3のいずれかを使って音色を選びます。

選んだ音色は、ランプの点灯とディスプレイの表示で確認できます。

◆ [VALUE]つまみ

つまみを左右に一段階ずつ回すと、「音色一覧」の順で、前後の音色が選ばれます。つまみを押しと、CFXグランド(PF1)に戻せます。



◆ ボタン1 [CFX]

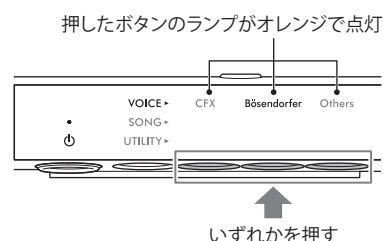
ボタンを押すとCFXグランド(PF1)が選ばれます。

◆ ボタン2 [Bösendorfer]

ボタンを押すとベーゼンドルファー (PF2) が選ばれます。

◆ ボタン3 [Others]

ボタンを押すたび、各カテゴリーの先頭の音色に切り替わります。電源が入っている間は、ボタン3を押すと、最後に選んだ音色を呼び出せます。電源を切ると、ボタン3の音色は「PF3」にリセットされます。

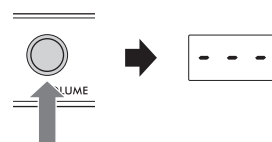


NOTE

音色の特徴を表したデモ曲が音色ごとに用意されています(22ページ)。聞いてみましょう。

音色を「---」にする(電子音を鳴らさない)

[VOLUME]つまみを押しと、「---」と表示され、鍵盤を弾いても電子音が鳴らない状態になります。その他の機能は使えます。アコースティックピアノの音で演奏しながら、リズム機能(39ページ)や録音機能(27ページ)などを使いたい場合に便利です。「---」は、[VALUE]つまみを回して選ぶこともできます。



NOTE

- 消音レバーまたは消音ペダルがあるピアノの場合、アコースティックピアノの音を鳴らすには、消音レバーや消音ペダルをアコースティックモード(15ページ)の状態にしてください。
- 消音レバーがないグランドピアノの場合、[VALUE]つまみを回して「---」を選べるのは、[Aco.]ランプの点灯中のみです。

初期設定では、電源を入れたときにCFXグランド(PF1)の音色が呼び出されます。ファンクションF7.3 (48ページ)で音色のバックアップ設定をオンにすると、電源を切る前に最後に選んだ音色が、電源を入れたときに呼び出されます。

音色一覧

各音色の詳細は、65ページでご確認ください。

TA3 TC3 SH3 SC3

ボタン	表示	音色
ボタン1 [CFX]	<i>PF1</i>	CFXグランド (バイノーラルCFXグランド*)
ボタン2 [Bösendorfer]	<i>PF2</i>	ベーゼンドルファー (バイノーラルベーゼンドルファー*)
ボタン3 [Others]	<i>PF3</i>	ポップグランド
	<i>PF4</i>	バラードグランド
	<i>PF5</i>	アップライトピアノ
	<i>FP1</i>	スカルラッティピアノ
	<i>FP2</i>	モーツァルトピアノ
	<i>FP3</i>	ベートーヴェンピアノ
	<i>FP4</i>	ショパンピアノ
	<i>EP1</i>	ステージエレピ
	<i>EP2</i>	DXエレピ
	<i>EP3</i>	ビンテージエレピ
	<i>HS1</i>	ハーブシコード8'
	<i>HS2</i>	ハーブシコード8'+4'
	<i>HS3</i>	ビブラフォン
	<i>HS4</i>	チェレスタ
	<i>Or1</i>	オルガン プリンシパル
	<i>Or2</i>	オルガン トウッティ
	<i>Or3</i>	ジャズオルガン
	<i>Pd1</i>	ストリングス
	<i>Pd2</i>	クワイア
	<i>Pd3</i>	シンセパッド
<i>LY1</i>	ピアノ+ストリングス	
<i>LY2</i>	ピアノ+パッド	
<i>LY3</i>	ピアノ+DXエレピ	
—	— — —	(電子音は鳴りません)

TA3 TC3 SH3 SC3

ボタン	表示	音色
ボタン1 [CFX]	<i>PF1</i>	CFXグランド (バイノーラルCFXグランド*)
ボタン2 [Bösendorfer]	<i>PF2</i>	ベーゼンドルファー (バイノーラルベーゼンドルファー*)
ボタン3 [Others]	<i>PF3</i>	アップライトピアノ
	<i>EP1</i>	ステージエレピ
	<i>EP2</i>	DXエレピ
	<i>EP3</i>	ビンテージエレピ
	<i>HS1</i>	ハーブシコード8'
	<i>HS2</i>	チェレスタ
	<i>Or1</i>	オルガン プリンシパル
	<i>Or2</i>	ジャズオルガン
	<i>Pd1</i>	ストリングス
	<i>Pd2</i>	シンセパッド
—	— — —	(電子音は鳴りません)

* ファンクションF4.1の設定がオンの場合(46ページ)、PF1 (CFXグランド)、PF2 (ベーゼンドルファー)の音色は、ヘッドホンを接続するとバイノーラルサンプリングの音に切り替わります。

本書では、この楽器に内蔵の曲やこの楽器で録音した曲、市販の曲データを総称して「ソング」と呼びます。この楽器では、MIDIソングとオーディオソングを扱えます。

• MIDIソング

鍵盤を押す/離すといった演奏の動きを記録したデータです。楽譜と同じように、どの鍵盤をどのくらいの強さでどのタイミングで弾いた、といった演奏情報が記録されたもので、音そのものは記録されていません。記録された演奏情報に基づいて音源を鳴らすことで音となります。この楽器では、SMF (Standard MIDI File)形式のMIDIソング(拡張子:.MID)を再生できます。

• オーディオソング

演奏した音そのものを記録したデータです。ボイスレコーダーなどに録音するのと同じしくみで記録したものです。スマートフォンや携帯音楽プレーヤーなどで再生するのと同じように、この楽器でもWAV形式(44.1 kHz/16ビット、ステレオ)のオーディオソングを再生できます。

ソングを再生する

TA3 TC3 SH3 SC3

ソングカテゴリー (再生できるソングの種類)

ソングカテゴリー		ソング番号	説明
音色デモソング(MIDI)		d.01~d.25/ d.01~d.12	この楽器に内蔵されている音色の特徴を表したデモです(68ページ)。
プリセットソング(MIDI)		P.01~P.50	この楽器に内蔵されているピアノ曲です(69ページ)。
USBフラッシュメモリー*	ユーザーソング(オーディオ)	A.00~A.99	この楽器で録音し、USBフラッシュメモリーに保存したオーディオソングです(27ページ)。
	外部ソング(オーディオ)	C.00~C.99、 100~399	市販のオーディオソングやコンピューターなどの機器で編集したオーディオソングを、USBフラッシュメモリーに保存したものです。
	ユーザーソング(MIDI)	S.00~S.99	この楽器で録音し、USBフラッシュメモリーに保存したMIDIソングです(27ページ)。
	外部ソング(MIDI)	F.00~F.99、 100~399	市販のMIDIソングやコンピューターなどの機器で編集したMIDIソングを、USBフラッシュメモリーに保存したものです。
内蔵メモリー	ユーザーソング(MIDI)	U.01~U.10	この楽器で録音し、内蔵メモリーに保存したMIDIソングです(27ページ)。

* USBフラッシュメモリーのカテゴリーは、USBフラッシュメモリーが接続されているときのみ表示されます。また、外部ソングのカテゴリーは、対象のデータがある場合のみ表示されます。

NOTE

この楽器で録音したソングを「ユーザーソング」といい、この楽器以外で作られたソングを「外部ソング」といいます。USBフラッシュメモリーにソングを録音すると、「USER FILES」フォルダーが自動的に作成され、このフォルダーにユーザーソングが保存されます。「USER FILES」フォルダー内のソングは、ユーザーソングとして扱われ、「USER FILES」フォルダー外のソングは、外部ソングとして扱われます。USBフラッシュメモリー内のソングの再生順序については、24ページをご覧ください。

1

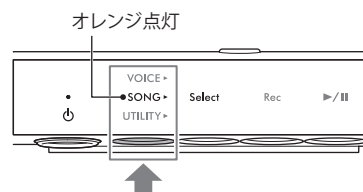
(USBフラッシュメモリー内のソングを再生する場合のみ)

USBフラッシュメモリーを[USB TO DEVICE]端子に接続します。

USBフラッシュメモリーを使う前に必ず「USB機器を接続する」(52ページ)をご覧ください。

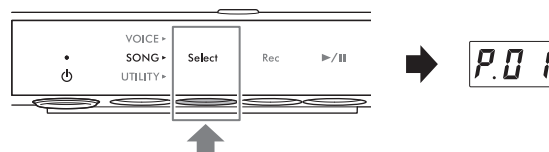
2

メニューボタンをくり返し押しして、[SONG]ランプをオレンジ色に点灯させます。



3

ボタン1 [Select]をくり返し押しして、ソングカテゴリー (22ページ)を選びます。



4

[VALUE]つまみを回して再生したいソングを選びます。

下記を選んだ場合は、カテゴリー内のソングを連続再生できます。その他のソング番号を選んだ場合は、そのソングのみを再生します。

- *.rd (ランダム再生): カテゴリー内のすべてのソングを順不同に連続再生します。
- *.AL (オールリピート再生): カテゴリー内のすべてのソングを順番に連続再生します。

「*」は、ソングカテゴリーを示します。たとえば、「P.rd」はすべてのプリセットソングを順不同に連続再生します。

NOTE

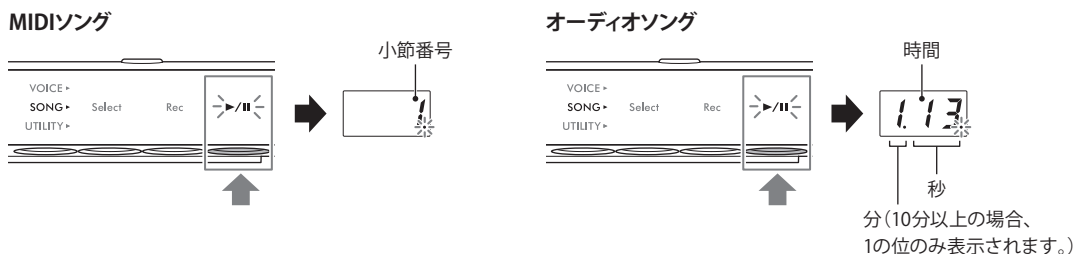
- [VALUE]つまみを押すとソングカテゴリー内の先頭の曲が選ばれます。
- 音色デモソングは連続再生できません。



5

ボタン3 [▶/||](再生/一時停止)を押して再生をスタートします。

[▶/||](再生/一時停止)ランプが点灯し、ディスプレイには再生位置(小節番号または時間)が表示されます。MIDIソングのテンポに合わせて(オーディオソング再生時はメトロノームのテンポに合わせて)右下のドットが点滅します。再生中の操作については、25ページをご覧ください。



NOTE

音色デモソングは再生位置が表示されません。

通常、選んだソングを最後まで再生すると、自動的に止まります。再生中に停止するには、ボタン1 [Select]を押します。

USBフラッシュメモリー内のソングの再生順序

USBフラッシュメモリーに保存されているソングはソートされ、以下の順序で再生されます。

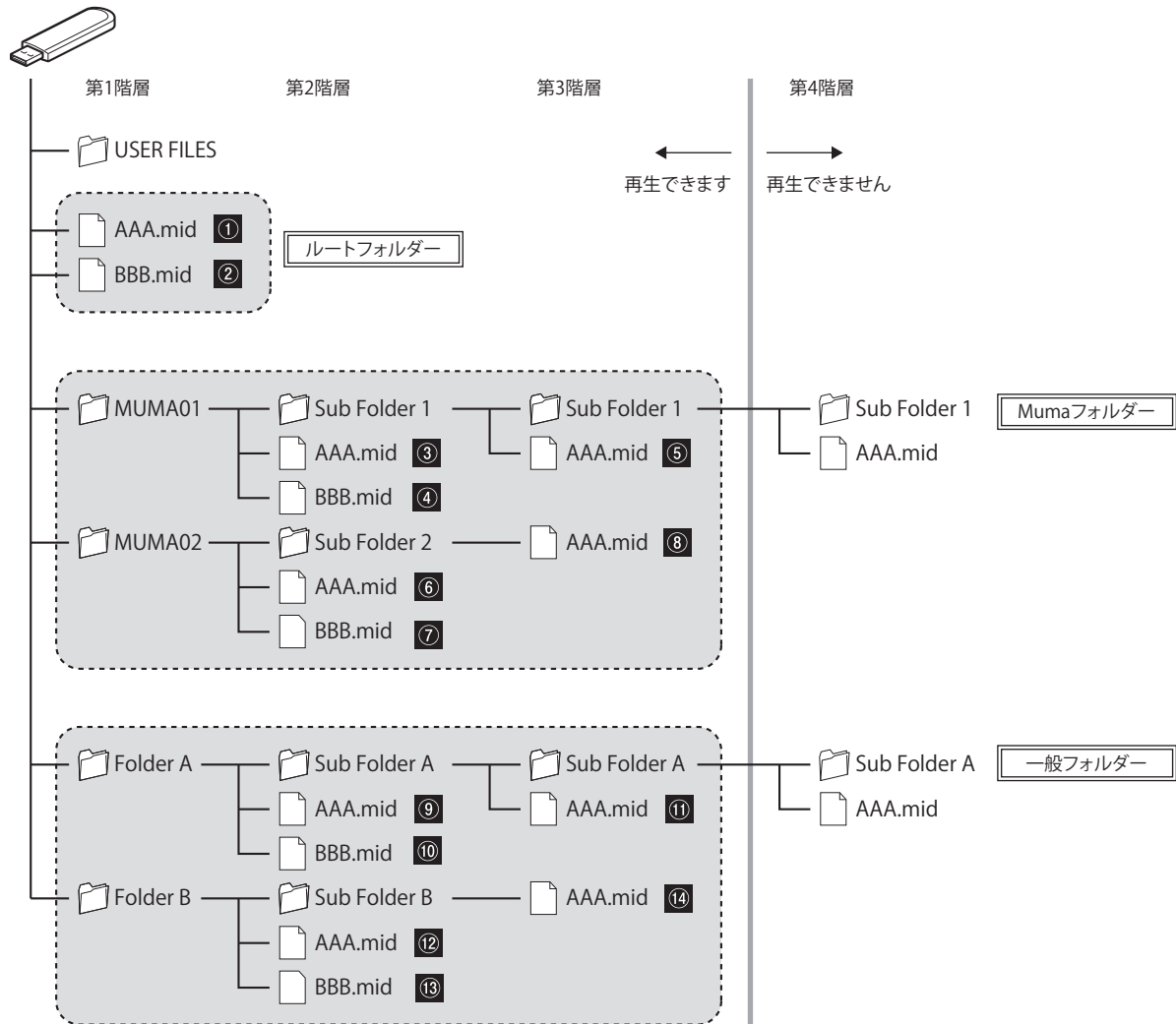
ユーザーソングは、「USER FILES」フォルダーに、下記の名前で保存されています。ソング番号(**)が小さい方から順に再生されます。

- USERSONG**.MID (MIDIソング)
- USERAUDIO**.WAV (オーディオソング)

外部ソングは、ルートフォルダー → Muma*フォルダー → 一般フォルダー (①~⑭)の順に再生されます。フォルダーやファイル名の優先順位は、数字→アルファベット→カナ/かな→漢字の順です。

* Muma (ミューマ)とは、一部のヤマハ特約楽器店に設置された音楽データを販売する機械です。Mumaで購入したMIDIデータは「MUMA01」などといったMumaフォルダーに保存されます。

USBフラッシュメモリー

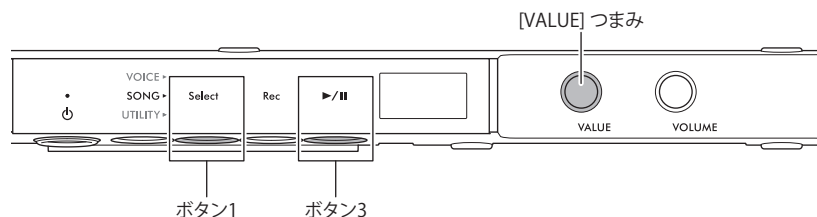


NOTE

この楽器は第4階層以下の階層に保存されたソングファイルを認識しません。コンピューターなどでUSBフラッシュメモリー内のソングファイルを管理する場合は、ソングファイルを第3階層までに保存してください。

ソング再生を操作する

ソング再生中にメニュー (VOICE/SONG/UTILITY)を切り替えても、再生は継続されます。SONGが選ばれている場合のみ、ソング再生中に以下の操作ができます。



一時停止する

ボタン3 [▶/||] (再生/一時停止)を押すと一時停止します。再生位置の表示が止まり、[▶/||](再生/一時停止)ランプが点滅します。もう一度押すと、一時停止したところから再生を再開できます。

停止する

ボタン1 [Select]を押すと停止します。ソングが最後まで再生された場合は、自動的に停止します。ボタン3 [▶/||] (再生/一時停止)を押してもう一度再生をスタートすると、曲頭から再生が始まります。

早送り/早戻しする

[VALUE]つまみを回します。左に回すと早戻し、右に回すと早送りできます。MIDIソングは小節単位、オーディオソングは秒単位で再生位置が移動します。

NOTE

音色デモソングは早送り/早戻しできません。

曲頭に戻る

[VALUE]つまみを押すと、曲頭に戻ります。

NOTE

音色デモソング再生中は、この操作をするとd.01のデモソングが選ばれます。

テンポを調節する

MIDIソング再生中はそのテンポを、オーディオソング再生中はその再生速度を変えられます。操作方法は、メトロノームのテンポと同様です。詳しくは37ページをご覧ください。

MIDIソングの場合:

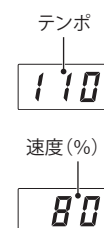
5~500 (1分間の拍数)の範囲で調節します。ソングの一時停止中にテンポを変更することもできます。ソングを停止すると、初期設定に戻ります。

オーディオソングの場合:

元の速度を100%として75%~125%の範囲で設定できます。設定した速度は、ほかのソングを選ぶまで保持されます。

NOTE

- 曲の途中でテンポが変わるMIDIソングの場合、相対的にテンポが変わります。たとえば、曲頭のテンポが100、途中で120に変わるMIDIソングの場合、曲頭のテンポを110 (10%速くする)にすると、途中のテンポが132 (10%速くなる)になります。
- MIDIソングのテンポを変えると、メトロノームも同じテンポに変わります。オーディオソングの再生速度を変えても、メトロノームのテンポは変わりません。
- オーディオソングの一時停止中で、メトロノーム再生中にこの操作をすると、メトロノームのテンポのみが変わります。オーディオソングの速度は変わりません。



MIDIソングの再生パート(右手/左手)を指定する

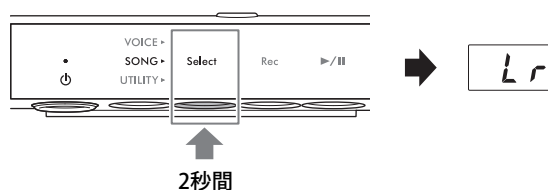
プリセットソングなどのMIDIソングでは、データが右手パートと左手パートに分かれているものがあります。このようなソングデータの場合、再生パートを指定できるので、右手パートだけを再生して左手の練習をしたりできます。

NOTE

- MIDIソングは16のチャンネルから構成されていて、プリセットソングでは、チャンネル1に右手パートが、チャンネル2に左手パートが割り当てられています。この楽器ではチャンネル1と2のみ再生する/しないを指定できます。チャンネル3～16は常に再生されません。
- チャンネル1または2にデータがないソングや、音色デモソングでは再生パートは指定できません。

1 MIDIソングを選び、再生をスタートします(23 ページ手順1～5)。

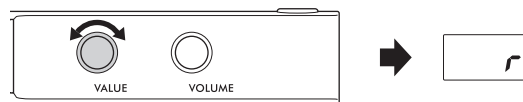
2 ボタン1 [Select] を2秒間長押しして、再生パートを表示させます。



3 [VALUE] つまみを回して再生するパートを選びます。

選んだパートで再生が続きます。

- **Lr**: 右手パート、左手パートともに再生します。
- **r**: 右手パートのみを再生します。
- **L**: 左手パートのみを再生します。



パートの指定は、ソングの再生中だけでなく一時停止中でも可能です。ソングの再生を停止すると、設定は「Lr」に戻ります。

演奏を録音する

TA3 TC3 SH3 SC3

この楽器では、下記2通りの方式で演奏を録音できます。用途に合った方式で演奏を録音しましょう。

• MIDI録音

MIDIソング(SMFフォーマット0)として録音します。内蔵メモリーに10曲、USBフラッシュメモリーに最大100曲(1曲あたり約500KBまで)が保存できます。オーディオソングよりデータ容量が小さく、パートごとに録音できるのが特長です。

• オーディオ録音

オーディオソング(WAV)として録音します。USBフラッシュメモリーに最大100曲(1曲あたり80分まで)が保存できます。この楽器での演奏だけでなく、コンピューターやスマートデバイスなどの外部機器からのオーディオ入力音*も録音できます。

USBフラッシュメモリーに録音した場合、MIDIソングは「USERSONG**.MID」(**は00～99の数字)、オーディオソングは「USERAUDIO**.WAV」というファイル名で「USER FILES」フォルダーに保存されます。

NOTE

- ここでのオーディオ入力音とは、コンピューターやスマートデバイスなどの外部機器を[AUX IN]端子、[USB TO HOST]端子、無線LANまたはBluetoothでこの楽器と接続したときに、外部機器から楽器に送られるオーディオデータのことです。外部機器との接続方法は、5章(52ページ)をご覧ください。
- ソング再生中は録音できません。録音前にソングを停止してください。
- アコースティックピアノの音は録音されません。レイヤーモード(19ページ)で録音した場合、電子音のみが録音されます。
- 音色を「--」に設定して録音した場合、MIDI録音では、CFXグランドの音色で録音されますが、オーディオ録音では、無音の状態が録音されます。

基本の録音方法 (MIDI録音/オーディオ録音)

1

(USBフラッシュメモリーにソングを保存する場合のみ)

USBフラッシュメモリーを[USB TO DEVICE]端子に接続します。

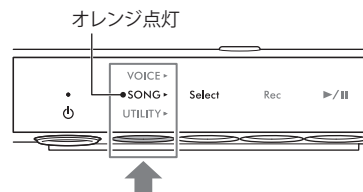
USBフラッシュメモリーを使う前に必ず「USB機器を接続する」(52ページ)をご覧ください。

2

音色(20ページ)の選択など、必要な設定をします。

3

メニューボタンをくり返し押して、[SONG]ランプをオレンジ色に点灯させます。

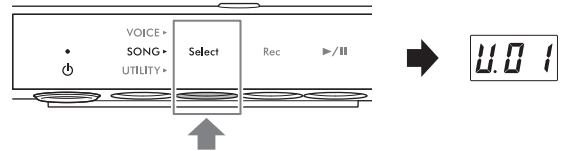


3

曲(ソング)を再生/録音する

4 ボタン1 [Select] をくり返し押して、録音方法 (ソングカテゴリー) を選びます。

- 内蔵メモリーにMIDI録音する場合: U. (U.01~U.10)
- USB フラッシュメモリーにMIDI録音する場合:
S. (S.00~S.99)
- USB フラッシュメモリーにオーディオ録音する場合: A. (A.00~A.99)

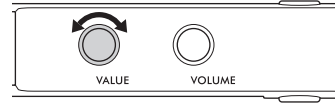


5 [VALUE] つまみを回して、録音先となるソング番号を選びます。

選んだソング番号に録音データがあるかどうか、ディスプレイで確認できます。

ご注意

録音データがあるソング番号を選んで録音すると、それまで録音されていたデータに上書きされます。



録音データがある場合

録音データがない場合



3つのドットが点灯



左端のドットのみ点灯

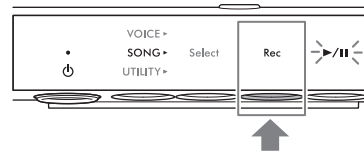
録音中にメトロノームを鳴らす場合は、ここでオンにします(36ページ)。メトロノームの音は録音されません。

6 ボタン2 [Rec] を押して録音待機状態にします。

[Rec]ランプが赤く点灯し、[▶/||] (再生/一時停止)ランプが点滅します。

リズムも一緒に録音する場合は、ここでリズムの再生をスタートさせます(39ページ)。鍵盤を弾くのと同時に

リズムをスタートさせたい場合は、ファンクションF6.5のシンクロスタート(48ページ)をオンにしておきます。



ご注意

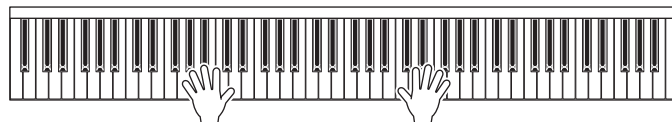
「EnP」や「FUL」が表示された場合、内蔵メモリーやUSBフラッシュメモリーの空き容量が少なくなっています。不要なユーザーソングを削除(33ページ)して、空き容量を確保することをおすすめします。「EnP」が表示された場合は、録音は始められますが、演奏データを保存できなかったり、録音途中で自動的に停止したりすることがあります。「FUL」が表示された場合は、録音を始められません。

NOTE

録音待機中にもう一度ボタン2 [Rec] を押すと、録音を中止できます。

7 鍵盤を弾くと同時に録音が始まるので、演奏します。

曲の始めに空白の小節を録音したいときは、ボタン3 [▶/||] (再生/一時停止) を押して録音をスタートさせます。

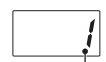


[▶/||] (再生/一時停止)ランプが点灯に変わり、ディスプレイには、録音中の小節番号または、録音経過時間が表示されます。

ご注意

内蔵メモリーまたはUSBフラッシュメモリーの空き容量なくなると、録音中または録音終了後に「FUL」と表示されます。この場合、すべてまたは一部のデータが保存されません。不要なユーザーソングを削除してから(33ページ)、録音し直してください。

MIDI録音の場合



小節番号

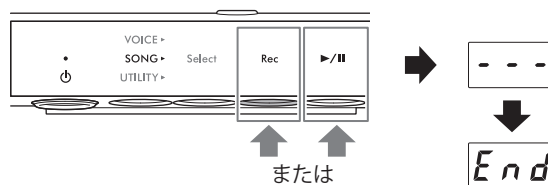
オーディオ録音の場合



秒

分(10分以上の場合、1の位のみ表示されます。)

- 8** 演奏が終わったら、ボタン2 [Rec] またはボタン3 [▶/||] (再生/一時停止) を押して録音を停止します。データを保存中であることを示すダッシュ「---」が表示されます。データの保存が終わると「End」が表示され、ソング番号の表示に戻ります。ボタン3 [▶/||] (再生/一時停止) を押すと、録音したソングが再生されます。



ご注意

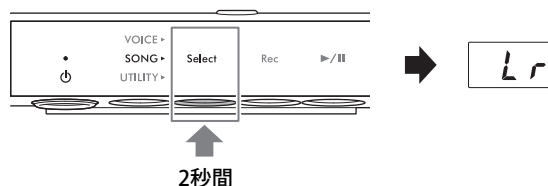
データ保存中(ダッシュ表示中)は電源を切らないでください。データや内蔵メモリー、USBフラッシュメモリーが壊れるおそれがあります。

右手パートと左手パートを別々に録音する (MIDI録音)

MIDI録音では、右手パートと左手パートを別々に録音できます。まず右手パートを録音し、次に録音した右手パートを再生しながら左手パートを重ねて録音することにより、両手で弾くのが難しい曲でも、1つのソングに仕上げることができます。

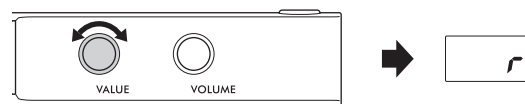
- 1** 1つめのパートを録音します。基本の録音方法に従って、録音待機状態にします(27ページ手順1~6)。手順4では、MIDIソングのカテゴリー(U.01~U.10またはS.00~S.99)を選びます。リズムも録音する場合は、1つめのパートと一緒に録音します。あとから追加することはできません。

- 2** ボタン1 [Select] を2秒間長押しして、録音パートを選ぶ表示に切り替えます。



- 3** [VALUE] つまみを回して、録音するパートを選びます。

- r: 右手パートを録音します。
- L: 左手パートを録音します。



NOTE

- 「Lr」を選ぶと、右手パート、左手パートとも録音します。「基本の録音方法」と同じです。
- 録音を中止するには、ボタン2 [Rec] を押します。

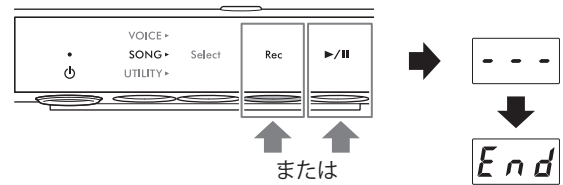
- 4** 鍵盤を弾くと同時に録音がスタートするので、演奏します。

曲の始めに空白の小節を録音したいときは、ボタン3 [▶/||] (再生/一時停止) を押して録音をスタートさせます。[▶/||] (再生/一時停止) ランプが点灯に変わり、ディスプレイには録音中の小節番号が表示されます。

ご注意

内蔵メモリーまたはUSBフラッシュメモリーの空き容量なくなると、録音中または録音終了後に「FUL」と表示されます。この場合、すべてまたは一部のデータが保存されません。不要なユーザーソングを削除してから(33ページ)、録音し直してください。

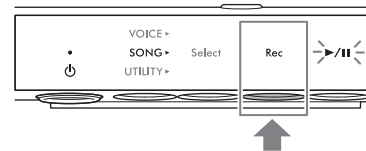
- 5** 演奏が終わったら、ボタン2 [Rec] またはボタン3 [▶/||](再生/一時停止)を押して録音を停止します。データを保存中であることを示すダッシュ「---」が表示されます。データの保存が終わると「End」が表示され、ソング番号の表示に戻ります。ボタン3 [▶/||](再生/一時停止)を押すと、録音したソングが再生されます。



ご注意

データ保存中(ダッシュ表示中)は電源を切らないでください。データや内蔵メモリー、USBフラッシュメモリーが壊れるおそれがあります。

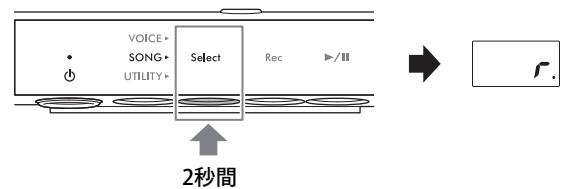
- 6** 2つめのパートを録音します。ボタン2 [Rec]を押して再び録音待機状態にします。
[Rec]ランプが赤く点灯し、[▶/||](再生/一時停止)ランプが点滅します。



NOTE

録音待機中にもう一度ボタン2 [Rec]を押すと、録音を中止できます。

- 7** ボタン1 [Select]を2秒間長押しして、録音パートを選ぶ表示に切り替えます。



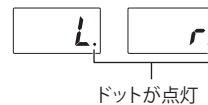
- 8** [VALUE]つまみを回して、録音するパートを選びます。録音済みのデータがあるパートには、ディスプレイのLまたはrの右側にドットが点灯します。



ご注意

録音済みのパートを選んで録音すると、データが上書きされ、それまで録音されていたパートのデータは消去されます。

録音データがある場合



NOTE

録音を中止するには、ボタン2 [Rec]を押します。

- 9** 鍵盤を弾くと同時に録音がスタートするので、演奏します。
録音済みのパートを先に再生させたい場合は、ボタン3 [▶/||](再生/一時停止)を押して録音をスタートさせます。[▶/||](再生/一時停止)ランプが点灯に変わり、ディスプレイには録音中の小節番号が表示されます。

ご注意

内蔵メモリーまたはUSBフラッシュメモリーの空き容量なくなると、録音中または録音終了後に「FUL」と表示されます。この場合、すべてまたは一部のデータが保存されません。不要なユーザーソングを削除してから(33ページ)、録音し直してください。

10

演奏が終わったら、ボタン2 [Rec] またはボタン3 [▶/||](再生/一時停止) を押して録音を停止します。

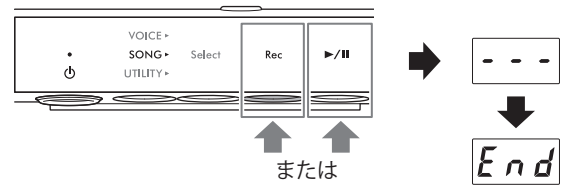
データを保存中であることを示すダッシュ「---」が表示されます。データの保存が終わると「End」が表示され、ソング番号の表示に戻ります。ボタン3 [▶/||](再生/一時停止) を押すと、録音したソングが再生されます。

ご注意

データ保存中(ダッシュ表示中)は電源を切らないでください。データや内蔵メモリー、USBフラッシュメモリーが壊れるおそれがあります。

NOTE

録音済みのどちらかのパートだけを録音し直したい場合は、前ページの手順6からやり直します。手順8では、録音し直したいパートを選んでください。



3

曲(ソング)を再生/録音する

ユーザーソングを管理する

TA3 TC3 SH3 SC3

この楽器で録音した内蔵メモリー内のユーザーソングをUSBフラッシュメモリーにコピーしたり、内蔵メモリーまたはUSBフラッシュメモリー内のユーザーソングを削除したりできます。USBフラッシュメモリーを使う前に必ず「USB機器を接続する」(52ページ)をご覧ください。

NOTE

ソングの録音中や再生中、一時停止中は操作できません。ソングを停止してから操作してください。

内蔵メモリーのユーザーソングをUSBフラッシュメモリーにコピーする

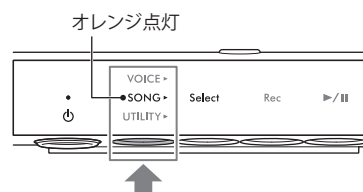
内蔵メモリーに保存されているユーザーソングは、USBフラッシュメモリーにコピーできます。大切なソングはUSBフラッシュメモリーにコピーしておくことをおすすめします。コピーしたソングは、USBフラッシュメモリー内の「USER FILES」フォルダーに「USERSONG**.MID」(**は数字)というファイル名でSMFフォーマット0で保存されます。

NOTE

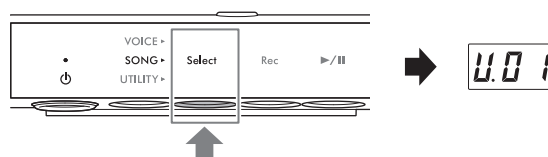
音色デモソングやプリセットソングはコピーできません。

1 USBフラッシュメモリーを[USB TO DEVICE]端子に接続します。

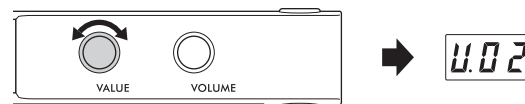
2 メニューボタンをくり返し押し、[SONG]ランプをオレンジ色に点灯させます。



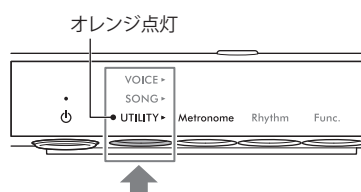
3 ボタン1 [Select] をくり返し押し、ソングカテゴリーを「U.」(ユーザーソング)に切り替えます。



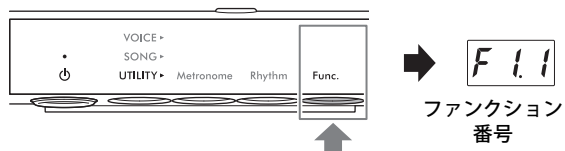
4 [VALUE]つまみを回して、コピーしたいソング(U.01 ~ U.10)を選びます。



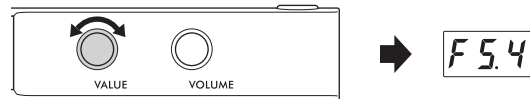
5 メニューボタンを押して[UTILITY]ランプをオレンジ色に点灯させます。



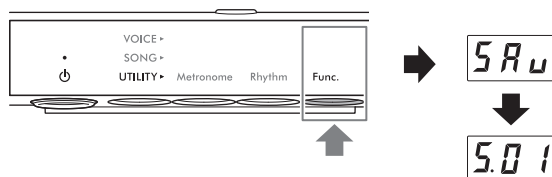
- 6** ボタン3 [Func.]を押してファンクション番号を表示させます。



- 7** [VALUE]つまみを回して「F5.4」(ユーザーソングのコピー)を選びます。



- 8** ボタン3 [Func.]を押して「SAV」と表示させます。USBフラッシュメモリー内のMIDIソング番号のうち、空いている最小の番号がコピー先として選ばれ、表示されます。

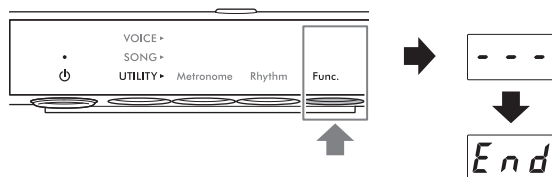


NOTE

- コピーを中止するには、ソング番号の表示中にボタン3以外を押します。
- USBフラッシュメモリーに空いているMIDIソング番号がない場合は、「FUL」と表示されコピーできません。不要なユーザーソングを削除してから(下記参照)、操作し直してください。

- 9** もう一度ボタン3 [Func.]を押してコピーを開始します。

ソングをコピー中であることを示すダッシュ「---」が表示されます。ソングのコピーが終わると「End」と表示されます。



ご注意

ソングのコピー中(ダッシュ表示中)はUSBフラッシュメモリーを抜いたり、電源を切ったりしないでください。データや内蔵メモリー、USBフラッシュメモリーが壊れるおそれがあります。

ユーザーソングを削除する

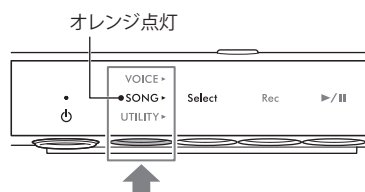
内蔵メモリーまたはUSBフラッシュメモリーに保存されているユーザーソングは以下の操作で削除できます。

NOTE

ユーザーソング以外のソングは削除できません。

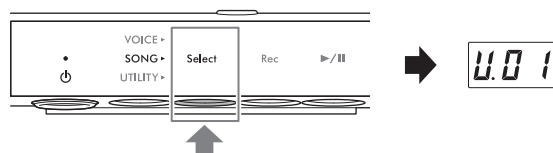
- 1** (USBフラッシュメモリー内のソングを削除する場合のみ) USBフラッシュメモリーを[USB TO DEVICE]端子に接続します。

- 2** メニューボタンをくり返し押して、[SONG]ランプをオレンジ色に点灯させます。

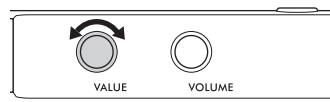


3 ボタン1 [Select] をくり返し押して、削除したい ソングのカテゴリーを選びます。

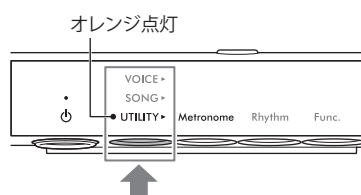
- U. (U.01～U.10): 内蔵メモリー内のユーザーソング(MIDI)
- S. (S.00～S.99): USBフラッシュメモリー内のユーザーソング(MIDI)
- A. (A.00～A.99): USBフラッシュメモリー内のユーザーソング(オーディオ)



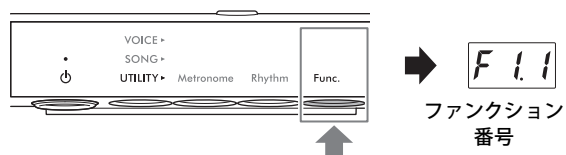
4 [VALUE] つまみを回して削除したいソングを選び ます。



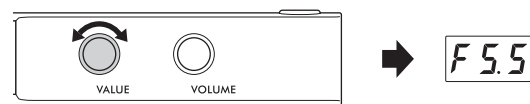
5 メニューボタンを押して [UTILITY] ランプをオレンジ 色に点灯させます。



6 ボタン3 [Func.] を押してファンクション番号を 表示させます。



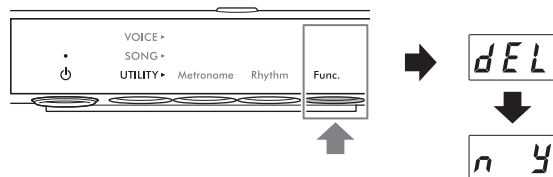
7 [VALUE] つまみを回して「F5.5」(ユーザーソング の削除)を選びます。



8 ボタン3 [Func.] を押して「dEL」と表示させます。 続いて「ny」と表示されます。

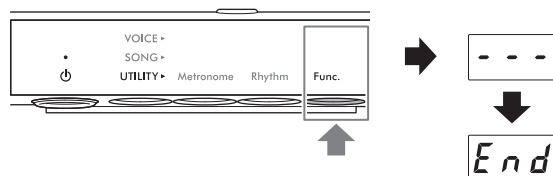
NOTE

削除を中止するには、「ny」の表示中にボタン3 [Func.]以外を
押します。



9 もう一度ボタン3 [Func.] を押して削除を開始しま す。

ソングを削除中であることを示すダッシュ「---」が表示
されます。ソングの削除が終わると「End」と表示され
ます。



ご注意

ソングの削除中(ダッシュ表示中)はUSBフラッシュメモリーを抜いたり、電源を切ったりしないでください。データや内蔵メモリー、USBフラッシュメモリーが壊れるおそれがあります。

ソングのファイル名に適した言語に設定する

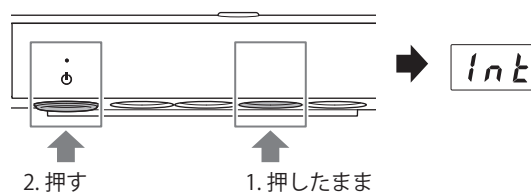
TA3 TC3 SH3 SC3

USBフラッシュメモリー内のソングが読み込めない場合は、ファイル名やフォルダー名に適した言語設定(JAまたはInt)にする必要があります。初期設定は「JA」です。

- **JA (Japanese):** 日本語やアルファベットを使ったフォルダー名/ファイル名を読み込みます。ウムラウトは読み込めません。
- **Int (International):** アルファベットやウムラウトを使ったフォルダー名/ファイル名を読み込みます。日本語は読み込めません。

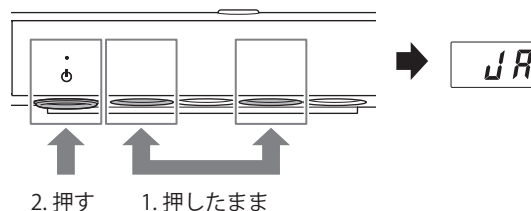
• 設定を「Int」にするには

ボタン2を押したまま、[⏻] (スタンバイ/オン)スイッチを押して電源を入れます。「Int」が表示されます。



• 設定を「JA」にするには

メニューボタンとボタン2を押したまま、[⏻] (スタンバイ/オン)スイッチを押して電源を入れます。「JA」が表示されます。



NOTE

電源を切っても、この設定は保持されます。

便利な機能を使う (UTILITY)

UTILITYでの操作を説明します。UTILITYでは、メトロノームやリズムを鳴らしたり、楽器をもっと便利に使うためのさまざまな機能の設定をしたりできます。

メトロノームを使う

TA3 TC3 SH3 SC3

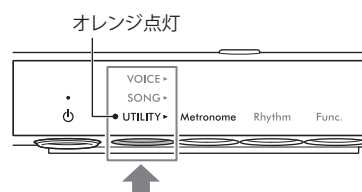
メトロノームを使うと、正確なテンポで練習できます。

NOTE

(TA3/TC3のみ)レイヤーモード(19ページ)で、音色を「---」に設定する(20ページ)と、メトロノームを鳴らしながらアコースティックピアノの音だけで演奏できます。

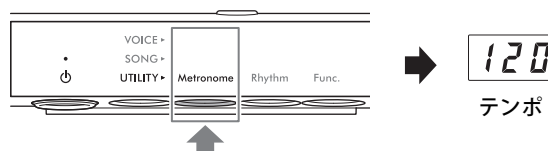
メトロノームを鳴らす/止める

- 1** メニューボタンをくり返し押しして、[UTILITY]ランプをオレンジ色に点灯させます。



- 2** [Metronome]ランプがオレンジ色に点灯していない場合は、ボタン1を押してオレンジ色に点灯させます。

現在のテンポが表示されます。

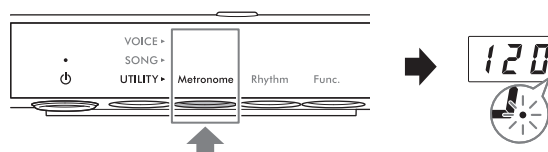


NOTE

すでに[Metronome]ランプがオレンジ色に点灯していた場合、ここでボタン1を押すとメトロノームが鳴り始めます。

- 3** ボタン1 [Metronome] を押してメトロノームを鳴らします。

メトロノームが鳴っている間、現在のテンポに合わせてディスプレイ右下のドットが点滅します。メトロノームが鳴っている間は、メニュー (VOICE/SONG/UTILITY) を切り替えてもドットの点滅が続きます。



- 4** メトロノームを止めるには、[Metronome]ランプがオレンジ色に点灯しているときに、ボタン1 [Metronome] を押します。

テンポを調節する

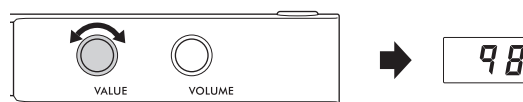
メトロノームのテンポを5~500(1分間の拍数)の範囲で設定します。ソング再生中は、同じ方法で、MIDIソングのテンポまたはオーディオソングの速度が設定できます(25ページ)。

NOTE

- MIDIソングの再生中は、ソングのテンポや拍子に合わせてメトロノームが鳴ります。
- オーディオソングの再生中は、オーディオソングの速度のみが変わります。メトロノームのテンポは変わりません。

1 UTILITYでボタン1 [Metronome] を押して現在のテンポを表示させます。

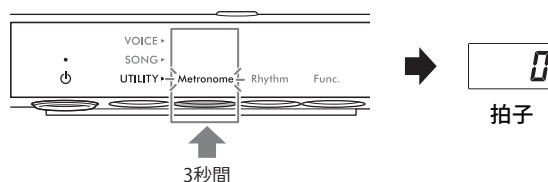
2 [VALUE]つまみを回してテンポを調節します。
[VALUE]つまみを押すと初期設定(120)に戻ります。



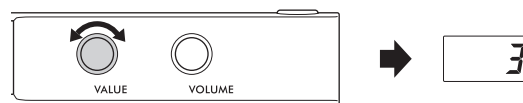
拍子を設定する

1 UTILITYでボタン1 [Metronome] を押してランプをオレンジ色に点灯させます。

2 ボタン1 [Metronome] を3秒間長押しして、拍子を表示させます。



3 [VALUE]つまみを回して拍子を設定します。
0、2、3、4、5、6から選べます。1拍めでは「チーン」と鳴り、その他の拍では「カチカチ」と鳴ります。
たとえば3に設定すると「チーンカチカチ」と鳴ります。
0の場合は、すべての拍で「カチカチ」と鳴ります。[VALUE]つまみを押すと初期設定(0)に戻ります。
ボタン1 [Metronome] を押すと、テンポ表示に戻ります。



NOTE

拍子の設定値は1小節に入る4分音符の数で指定するため、それ以外の拍子を指定する場合は4分音符に換算した拍子で指定してください(3/2拍子の場合は6拍子を指定します)。

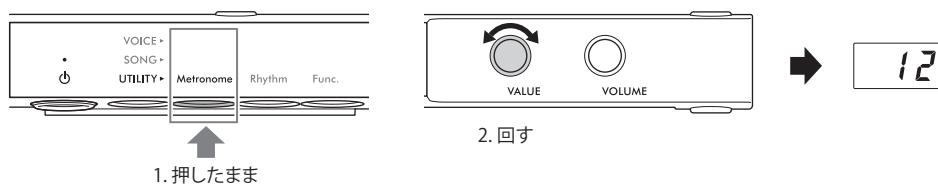
メトロノームの音量を調節する

NOTE

メトロノームの音量とリズムの音量(41ページ)は連動します。また、ファンクションF6.1 (48ページ)でも調節できます。

1 UTILITYでボタン1 [Metronome] を押してランプをオレンジ色に点灯させます。

2 ボタン1 [Metronome] を押したまま、[VALUE]つまみを回してメトロノームの音量を調節します。1～20の範囲で調節できます。[VALUE]つまみを押すと初期設定(15)に戻ります。



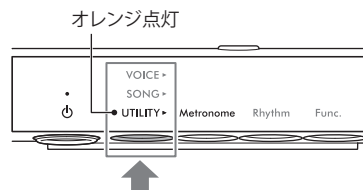
リズムに合わせて演奏する

TA3 TC3 SH3 SC3

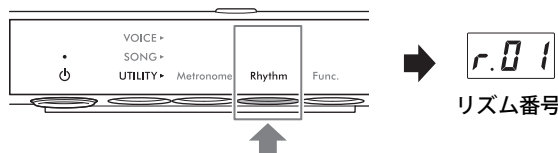
この楽器にはさまざまな音楽ジャンルのリズム(打楽器音とベース音)が内蔵されています。リズムに合わせて楽しく演奏できます。選べるリズムは、「リズム一覧」(40ページ)をご覧ください。

リズムを再生する

- 1 メニューボタンをくり返し押しして、[UTILITY]ランプをオレンジ色に点灯させます。



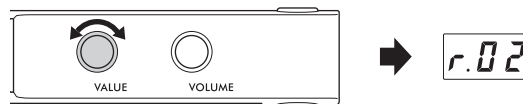
- 2 [Rhythm]ランプがオレンジ色に点灯していない場合は、ボタン2を押してオレンジ色に点灯させます。現在選ばれているリズムの番号が表示されます。



NOTE

すでに[Rhythm]ランプがオレンジ色に点灯していた場合、ここでボタン2を押すとリズムが鳴り始めます。停止するにはもう一度ボタン2 [Rhythm]を押します。

- 3 [VALUE]つまみを回して、再生したいリズムを選びます。

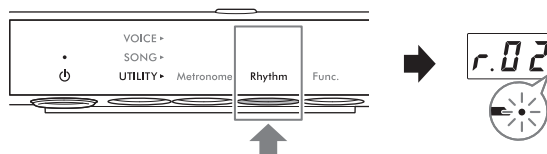


NOTE

ソングの再生中や録音中はリズムの種類を変更できません。

- 4 ボタン2 [Rhythm]を押して、リズム再生をスタートさせます。

リズム再生中、現在のテンポに合わせてディスプレイ右下のドットが点滅します。リズム再生中は、メニュー(VOICE/SONG/UTILITY)を切り替えてもドットの点滅が続きます。

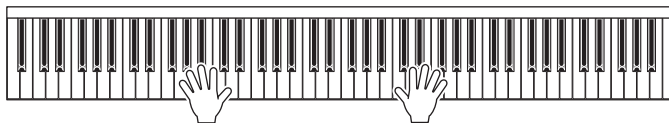


NOTE

- 演奏を盛り上げるため、リズムの始まりと終わりにはイントロ/エンディングが流れます。ファンクションF6.2、F6.3(48ページ)で、イントロ/エンディングを再生する/しないを設定できます。
- シンクロスタートの設定がオンの場合は、手順4で[Rhythm]ランプが点滅し、リズム再生が待機状態になります。鍵盤を押さえるとリズム再生がスタートします。シンクロスタートのオン/オフは、ファンクションF6.5(48ページ)で設定できます。

5 リズムに合わせて演奏しましょう。

演奏するだけで、楽器がそのコードを認識して、演奏に合ったベース音が鳴ります。ベース音を鳴らしたくないときは、オフに設定します。ファンクションF6.4 (48ページ)で、ベース音のオン/オフを設定できます。



NOTE

曲のアレンジによっては、ベース音が演奏に合わない場合があります。

6 リズムの再生を停止するには、[Rhythm]ランプがオレンジ色に点灯しているときに、ボタン2 [Rhythm]を押します。

リズム一覧

TA3 TC3 SH3 SC3

表示	リズム名	表示	リズム名
r.01	8ビート	r.11	スイング
r.02	16ビート	r.12	ジャズワルツ
r.03	シャッフル1	r.13	サンバ
r.04	シャッフル2	r.14	ボサノバ
r.05	シャッフル3	r.15	ルンバ
r.06	ゴスペル	r.16	サルサ
r.07	8ビートバラード	r.17	キッズポップ
r.08	6-8スローロック	r.18	6/8マーチ
r.09	ファストジャズ	r.19	クリスマススイング
r.10	スロージャズ	r.20	クリスマス3/4

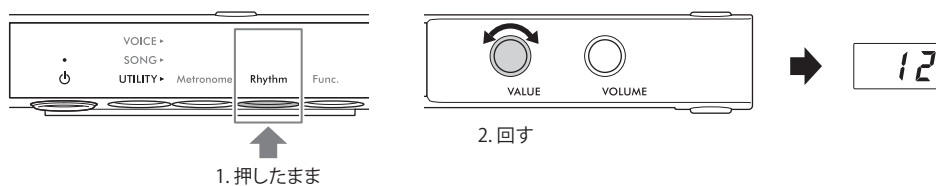
リズムの音量を調節する

NOTE

リズムの音量とメトロノームの音量(38ページ)は連動します。また、ファンクションF6.1 (48ページ)でも調節できます。

1 UTILITYでボタン2 [Rhythm] を押してランプをオレンジ色に点灯させます。

2 ボタン2 [Rhythm] を押したまま、[VALUE]つまみを回してリズムの音量を調節します。
1～20の範囲で調節できます。[VALUE]つまみを押すと初期設定(15)に戻ります。



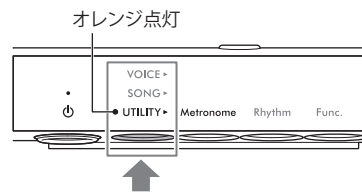
さまざまな機能を使う(ファンクション)

TA3 TC3 SH3 SC3

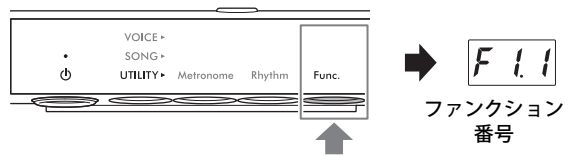
音の高さの微調整やメトロノーム音量の調節など、この楽器に内蔵されているさまざまな機能(ファンクション)をお好みに設定して、より快適に演奏を楽しみましょう。設定できる機能は、「ファンクション一覧」(43ページ)をご覧ください。

ファンクションの基本操作

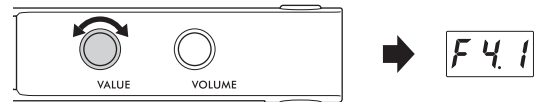
- 1** メニューボタンをくり返し押して、[UTILITY]ランプをオレンジ色に点灯させます。



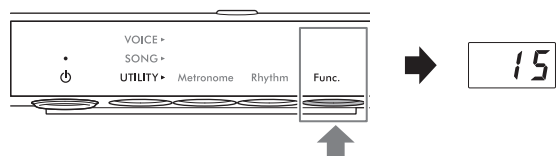
- 2** ボタン3 [Func.]を押してファンクション番号を表示させます。



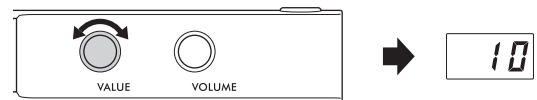
- 3** [VALUE]つまみを回して設定したいファンクション番号を選びます。



- 4** ボタン3 [Func.]を押して設定値を表示させます。



- 5** [VALUE]つまみを回して設定値を変更します。
[VALUE]つまみを押すと初期設定に戻ります。
続けてほかの機能の設定をする場合は、手順2から操作します。設定を終了するには、ボタン3以外のボタンを押します。



ファンクション一覧

ファンクションは以下のように分類されています。

- リバーブ(残響効果)の設定: F1.1~F1.3 (下記)
- 音色の効果の設定: F2.1~F2.9 (44ページ)
- 演奏の設定: F3.1~F3.6 (45ページ)
- 音響の設定: F4.1~F4.9 (46ページ)
- ソングの設定: F5.1~F5.6 (47ページ)
- メトロノーム/リズムの設定: F6.1~F6.5 (48ページ)
- 楽器全体に関わる設定: F7.1~F8.5 (48ページ)

■ リバーブ(残響効果)の設定

ファンクション番号	機能		設定範囲	初期設定
F 11	リバーブ オン/オフ	鍵盤演奏音やソング再生音に残響を加えます。オンにすると、コンサートホールなどで演奏しているかのような臨場感を味わえます。 NOTE (TA3/TC3のみ) [TA]ランプ点灯時(トランスアコースティックモードまたはレイヤーモード時)は、リバーブは自動的にオフになります。[TA]ランプ点灯時は、音色のバックアップ(F7.3)の設定がオンの場合でも、リバーブのオン/オフ(F1.1)の設定はバックアップされません。	On (オン)/ OFF (オフ)	On (オン)
F 12	リバーブのかかり具合	リバーブのかかり具合(深さ)を設定します。リバーブの設定(F1.1)がオフの場合は「---」と表示され設定できません。	1~20	音色による
F 13	リバーブの種類	リバーブの種類を選びます。リバーブの設定(F1.1)がオフの場合は「---」と表示され設定できません。 NOTE 外部ソング(22ページ)の再生時や、コンピューターやMIDI機器からのMIDI情報の受信時(59、60ページ)は、「---」と表示されることがあります。これはこの楽器にないリバーブが使われていることを表します。	(左記)	音色による
	OFF	オフ		リバーブはかかりません。
	r.HL	リサイタルホール		ピアノリサイタル向けの中規模ホールのクリアな響きです。
	c.HL	コンサートホール		オーケストラの公演が行われる大きなホールの華やかな響きです。
	Chn	チェンバー		室内楽に適した、宮廷内の広間の落ち着きのある響きです。
	Cdt	大聖堂		天井の高い石造りの大聖堂の荘厳な響きです。
	CLb	クラブ		ライブハウスやジャズクラブのメリハリのある響きです。
	PLt	プレート		録音スタジオで使用される往年のリバーブ装置の明るい響きです。

■ 音色の効果の設定

この印(*)が付いている用語については、50ページ「用語解説」で詳しく説明しています。


NOTE

TA3、TC3では、F2.1～F2.6は、ヘッドホン接続中のみ効果がかかります。

ファンクション番号	機能		設定範囲	初期設定
F2.1	VRMオン/オフ	VRM (Virtual Resonance Modeling)*のオン/オフを設定します。オンにすると、ピアノ音色(PF 1～PF5)にのみVRMの効果がかかります。VRMの要素(ダンパーレゾナンス、ダンパーノイズ、ストリングスレゾナンス、アリコートレゾナンス、ボディレゾナンス)は個別に調節できます(F2.2～F2.6)。	On (オン)/ OFF (オフ)	On (オン)
F2.2	ダンパーレゾナンスの かかり具合	ダンパーペダルを踏んだときに加わる、VRMによる共鳴効果(ダンパーレゾナンス)のかかり具合を調節します。VRM (F2.1)がオンで、ピアノ音色(PF 1～PF5)が選ばれている場合のみ効果がかかります。	0～10	5
F2.3	ダンパーノイズ オン/オフ	VRMによるダンパーノイズ*のオン/オフを切り替えます。VRM (F2.1)がオンで、ピアノ音色(PF 1～PF5)が選ばれている場合のみ効果がかかります。ダンパーレゾナンス(F2.2)が0のときには効果しません。	On (オン)/ OFF (オフ)	On (オン)
F2.4	ストリングレゾナンスの かかり具合	鍵盤を押したときに加わる、VRMによる弦の共鳴効果(ストリングレゾナンス)のかかり具合を調節します。VRM (F2.1)がオンで、ピアノ音色(PF 1～PF5)が選ばれている場合のみ効果がかかります。	0～10	5
F2.5	アリコートレゾナンスの かかり具合	鍵盤から手を離れたときに加わる、VRMによるアリコート*の共鳴効果(アリコートレゾナンス)のかかり具合を調節します。VRM (F2.1)がオンで、ピアノ音色(PF 1～PF5)が選ばれている場合のみ効果がかかります。	0～10	5
F2.6	ボディレゾナンスの かかり具合	響板や側板、フレームなど、ピアノ本体部の響きを再現した効果(ボディレゾナンス)のかかり具合を調節します。VRM (F2.1)がオンで、ピアノ音色(PF 1～PF5)が選ばれている場合のみ効果がかかります。	0～10	5
F2.7	グランド・エクスプレッション・モデリング	グランド・エクスプレッション・モデリング*の種類を選びます。「ダイナミック」では、鍵盤を弾く強さやタッチに応じて、アコースティックピアノのように音が微妙に変化します。「スタティック」では弾き方を変えても、音はさほど変化しません。「CFXグランド」と「ベーゼンドルファー」の音色のみに効果がかかります。	dYn(ダイナミック)/ Stc(スタティック)	dYn(ダイナミック)
F2.8	パン	鍵盤を弾いた音が、左右のどのあたりから聞こえてくるようにするかを設定します。	L64 (左寄り) ～C (中央) ～r63 (右寄り)	音色による
F2.9	鍵盤演奏の移調 (キーボードトランス ポーズ)	鍵盤演奏のキーを半音単位で移調します。ここでの設定により、弾く鍵盤を変えずに、ほかの楽器や歌う人の声の高さにキー(調)を合わせられます。たとえば、移調量を「5」に設定すると、「ド」の鍵盤を弾いたときに「ファ」の音が鳴り、「ハ長調」の弾き方で「ヘ長調」の演奏ができます。 NOTE 演奏情報(ノートオン/オフ)をMIDI機器やコンピューターにMIDI送信する場合、ノートナンバーはトランスポーズされた値で送信されます。ノートオン/オフをMIDI受信した場合は、受信したままのノートナンバーで発音します(トランスポーズされません)。	-12～0～ +12	0

■ 演奏の設定

ファンクション番号	機能		設定範囲	初期設定
F31	ハーフペダル位置の調整	ダンパーペダル(右のペダル)を踏んでいない状態と、完全に踏み込んだ状態の中間の状態を「ハーフペダル」といい、グランドピアノのダンパーが弦に触れるか触れないかの微妙な状態を指します。ここではどの程度踏み込んだらハーフペダルの効果がかかるかを設定します。数値が大きいほど深い踏み込み位置で効果がかかります。	-2~0~+4	0
F32	タッチ感度	鍵盤を弾く強さに対する強弱の付き方(タッチ感度)を設定します。	(左記)	0 (ミディアム)
		-2 (ソフト)	弱く弾いても大きな音が出ます。	
		-1 (ソフト/ミディアム)	ソフトとミディアムの中のタッチ感度です。	
		0 (ミディアム)	標準的なタッチ感度です。	
		1 (ミディアム/ハード)	ミディアムとハードの中のタッチ感度です。	
		2 (ハード)	強く弾かないと大きな音が出ません。	
OFF (固定)	タッチによる強弱は付かず一定の音量が出ます。このときの音量はF3.3で設定できます。			
F33	タッチ固定時のペロシティー	タッチ感度をOFF (固定)に設定したときのペロシティー (音量)を設定します。	1~127	64
F34	音の高さ(ピッチ)の調整 (マスターチューニング)	鍵盤全体のピッチを0.2Hz単位で微調整します。ほかの楽器や携帯音楽プレーヤーの再生などに合わせて演奏するときに便利です。 NOTE 設定値は100の位の表示は省略されます(440.2Hzの場合は、「40.2」と表示されます)。	414.8~ 466.8 (Hz)	440.0 (Hz)
F35	音律(調律法)	一般的なピアノの調律法である「平均律」以外の音律によって演奏される音楽があります。音律の設定を変えることで、それらの音楽が誕生した当時の調律法で演奏できます。	(左記)	1 (平均律)
		1 (平均律)	1オクターブを12の間隔で等分した音律です。現在もっともポピュラーなピアノの調律法です。	
		2 (純正律長調)	自然倍音を基準とするため、主要3和音が美しく純粋に響くのが特徴です。現在でも合唱のハーモニーなどに見られます。	
		3 (純正律短調)		
		4 (ピタゴラス音律)	ギリシャ時代の哲学者ピタゴラスによって考えられた、5度音程だけの組み合わせからできた音律です。3度はうなりが生じますが、5度と4度の音程が美しく、旋律の演奏に向いています。	
5 (中全音律)	ピタゴラス音律の3度の音程のうなりをなくすために改良された音律です。16世紀後半から18世紀後半までにかけて広く普及し、ヘンデルも使用しました。			

ファンクション番号	機能		設定範囲	初期設定	
F35	音律(調律法)	6(ヴェルクマイスター音律) 7(キルンベルガー音律)	中全音律とピタゴラス音律を組み合わせた音律で、両者はその組み合わせ方が異なります。転調により曲想が変化するのが特徴です。バッハやベートーヴェン時代に使用され、現在でもその時代の曲をハープシコード(=チェンバロ)などで演奏するときにはしばしば用いられます。	(左記)	1(平均律)
F36	基音	音律を平均律以外に設定した場合は、基音(調の主音)を設定する必要があります。基音を変えると、音律の音程を保ったまま移調します。  上部の横線はシャープを、下部の横線はフラットをそれぞれ示しています。	C、C#、D、E♭、E、F、F#、G、A♭、A、B♭、B	C	

■ 音響の設定

ファンクション番号	機能		設定範囲	初期設定
F41	バイノーラル オン/オフ	バイノーラルまたはステレオフィニックオプティマイザー(17ページ)のオン/オフを切り替えます。オンの場合は、ピアノ音色(PF1~PF5)での演奏時に、バイノーラルサンプリングまたはステレオフィニックオプティマイザーにより、ヘッドホン使用時でも臨場感のある音が楽しめます。 NOTE ヘッドホン接続時のみ効果がかけられます。	On(オン)/OFF(オフ)	On(オン)
F42	ブリリアンス	メロー(柔らかくまろやかな音)からブライト(明るく鋭い音)の間で音質を調整します。	-2(メロー)~0(ノーマル)~+2(ブライト)	0(ノーマル)
F43	IAC オン/オフ	IAC(Intelligent Acoustic Control/インテリジェント・アコースティック・コントロール)とは、楽器の音量の大小に応じて、自動的に音質を補正する機能です。音量が小さい場合でも、低音や高音がしっかりと聞こえるようになります。	On(オン)/OFF(オフ)	On(オン)
F44	IACのかかり具合	IACのかかり具合を調整します。値が大きいほど、音量が小さいときの低音や高音がよりしっかりと聞こえるように補正されます。	-3~0~+3	0
F45	オーディオEQ TA3 TC3 SH3 SC3	コンピューターやスマートデバイスなどの外部機器から楽器へのオーディオ入力音の音質を補正する(EQ=イコライザー機能を使う)かどうかを設定します。オンにすると、外部機器から楽器へのオーディオ入力音を再生するときに、最適なサウンドになります。逆に、そのオーディオ入力音を楽器での演奏音とともに外部機器に出力するときは、この機能をオフすることをおすすめします。 NOTE ここでのオーディオ入力音とは、コンピューターやスマートデバイスなどの外部機器を[AUX IN]端子、[USB TO HOST]端子、無線LANまたはBluetoothでこの楽器と接続したときに、外部機器から楽器に送られるオーディオデータのことで、外部機器との接続方法は、5章(52ページ)をご覧ください。	On(オン)/OFF(オフ)	On(オン)

ファンクション番号	機能	設定範囲	初期設定	
F46	トランスアコースティックの音響補正 TA3 TC3 SH3 SC3	トランスアコースティックモード、レイヤーモードでの演奏時に、屋根や天板の開閉に応じて、自然な響きとなるように音響を補正します。屋根または天板が開いているときは「OPn」、閉まっているときは[CLS]を選びます。	OPn(開)/CLS(閉)	アップライトピアノ: CLS(閉)、 グランドピアノ: OPn(開)
F47	トランスアコースティックの音色調整	トランスアコースティックモード、レイヤーモードでの演奏時に、響板から出る音の低域(F4.7)、中域(F4.8)、高域(F4.9)の音色をそれぞれ調整します。	-12~0~+12	0
F48	TA3 TC3 SH3 SC3			
F49				

■ ソングの設定

ファンクション番号	機能	設定範囲	初期設定	
F51	MIDIソング再生と鍵盤演奏の音量バランス	鍵盤演奏の音量とMIDIソングの再生音量のバランスを調節します。値を小さくすると鍵盤演奏の音量が下がり、大きくするとソング再生の音量が下がります。オーディオソングとのバランスを調節するには、F5.3でオーディオソングの音量を設定します。 NOTE 一部のピアノソフトソングでは、音量バランス値が独自に設定されています。その場合には、独自に設定されている音量バランス値が優先されます。	-64~0~+64	0
F52	ソングの移調 (ソングトランスポート)	MIDIソングやオーディオソングを再生したときのキーを半音単位で移調します。たとえば移調量を5に設定した場合、C3(ド)の音はF3(ファ)の音として再生されます。 NOTE • ノートオン/オフをMIDI機器やコンピューターからMIDI受信した場合は、受信したままのノートナンバーで発音します(トランスポートされません)。 • オーディオソングの場合は音質が変わることがあります。	-12~0~+12	0
F53	オーディオソングの音量	オーディオソングを再生したときの音量を設定します。	1~20	16
F54	ユーザーソングのコピー	内蔵メモリーのユーザーソングをUSBフラッシュメモリーにコピーします。詳しくは、32ページをご覧ください。	-	-
F55	ユーザーソングの削除	内蔵メモリーやUSBフラッシュメモリーに保存されたユーザーソングを削除します。詳しくは、33ページをご覧ください。	-	-
F56	USBフラッシュメモリーのフォーマット(初期化)	USBフラッシュメモリーをフォーマットします。詳しくは、53ページをご覧ください。 ご注意 フォーマットを実行すると、USBフラッシュメモリーに保存されているデータがすべて消去されます。大切なデータはコンピューターなど、ほかの記憶装置に保存しておいてください。	-	-


■ メトロノーム/リズムの設定

ファンクション番号	機能		設定範囲	初期設定
F6.1	メトロノーム/ リズムの音量	メトロノームとリズム両方の音量を調節します。	1~20	15
F6.2	リズムのイントロ	リズム再生スタート時にイントロを再生する(オン)か、再生しない(オフ)かを選びます。 NOTE ソング再生中にリズム再生をスタートした場合は、ここでオンに設定してもイントロは再生されません。	On (オン)/ OFF (オフ)	On (オン)
F6.3	リズムのエンディング	リズム再生終了時にエンディングを再生する(オン)か、再生しない(オフ)かを選びます。	On (オン)/ OFF (オフ)	On (オン)
F6.4	リズムのベース音	リズム再生時に、ベースの自動伴奏を付ける(オン)か付けな いか(オフ)を選びます。	On (オン)/ OFF (オフ)	On (オン)
F6.5	リズムのシンクロ スタート	リズム再生のスタート方法を選びます。 • オン: 鍵盤を押さえると同時に自動でスタート(シンクロス タート)します。UTILITYでボタン2 [Rhythm]を押す(39ペー ジ手順4)と、[Rhythm]ランプが点滅して、リズム再生が待 機状態になります。この状態で、鍵盤を押さえると、リズ ムが同時にスタートします。 • オフ: UTILITYでボタン2 [Rhythm]を押してスタートさせま す(39ページ手順4)。	On (オン)/ OFF (オフ)	OFF (オフ)

■ 楽器全体に関わる設定

ファンクション番号	機能		設定範囲	初期設定
F7.1	MIDI送信チャンネル	外部MIDI機器に鍵盤演奏のMIDIデータを送信するときの チャンネルを指定します。オフを選ぶと、MIDIデータは送信 されません。	1~16、 OFF (オフ)	1
F7.2	ローカルコントロー ル	この楽器で演奏した音をこの楽器に内蔵の音源で鳴らすかど うかを設定します。 • オン: 鍵盤演奏データをこの楽器の音源に送信します。鍵 盤を弾くと、この楽器の音源部から音が鳴ります。 • オフ: 鍵盤演奏データをこの楽器の音源に送信しません。 鍵盤を弾いても、この楽器からは音が出なくなります。接 続したMIDI機器に演奏データを送って、その外部機器から 音を鳴らします。	On (オン)/ OFF (オフ)	On (オン)
F7.3	バックアップ(音色)	音色に関わる以下の設定をバックアップする(電源が切れて も記憶される)かどうかを設定します。バックアップする場 合はオンにします。 • 選ばれている音色 • リバーブの設定(F1.1~F1.3) • 音色の効果の設定(F2.1~F2.8)	On (オン)/ OFF (オフ)	OFF (オフ)

ファンクション番号	機能		設定範囲	初期設定
F74	バックアップ (その他)	演奏全般に関わる以下の設定をバックアップする(電源が切れても記憶される)かどうかを設定します。バックアップする場合はオンにします。 <ul style="list-style-type: none"> 演奏の設定(F3.1~F3.6) 音響の設定(F4.1~F4.7) ソングの設定(F5.1、F5.3) リズムの設定(F6.1~F6.4) MIDIの設定(F7.1~F7.2) 	On (オン)/ OFF (オフ)	On (オン)
F75	Bluetooth機能の オン/オフ	Bluetooth機能のオン/オフを設定します。スマートフォンなどのBluetooth対応機器と接続するには、オンにします。 詳しくは、55ページをご覧ください。	On (オン)/ OFF (オフ)	On (オン)
F76	Bluetoothペアリン グ	Bluetooth対応機器を登録(ペアリング)します。「F7.6」の表示中にボタン3 [Func.]を押すと、楽器がペアリング待機状態になります。詳しくは、55ページをご覧ください。	—	—
F81	オートパワーオフ	オートパワーオフ機能(14ページ)のオン/オフを切り替えます。 <ul style="list-style-type: none"> オン: 無操作の状態が約30分間続くと、自動的に電源が切れます。 オフ: 電源は自動的に切れません。電源を切るには、 [⏻] (スタンバイ/オン)スイッチを押します。 <p>ご注意</p> <p>ソングの再生中や外部機器と通信中は、電源は自動的に切れません。使用後は、[⏻] (スタンバイ/オン)スイッチを押してこの楽器の電源を切ってください。</p>	On (オン)/ OFF (オフ)	On (オン)
F82	AUX INノイズゲート	AUX INノイズゲートは[AUX IN]端子から入力された音声の余分なノイズをカットする機能です。本来ノイズではないピアノの減衰音のような小さな音までノイズとみなしてカットしてしまうことがあるので、その場合はオフにします。	On (オン)/ OFF (オフ)	On (オン)
F83	オーディオループ バック	USBオーディオインターフェース機能(59ページ)またはスマートピアニストとの無線LAN接続(58ページ)により、コンピューターやスマートデバイスからこの楽器へ入力したオーディオ再生音を、この楽器での演奏音とともにコンピューターやスマートデバイスに出力する(オーディオループバックする)かどうかを設定できます。出力する場合はオンに、出力しない場合はオフにします。たとえば、スマートデバイスなどを使って、楽器での演奏音と楽器へ入力したオーディオ再生音とを合わせて録音したい場合はオンに、楽器での演奏音だけを録音したい場合はオフにします。 <p>⚠ 注意</p> <p>DAW (Digital Audio Workstation) などの音楽制作用アプリケーションと一緒に使用する場合、設定によっては大きな音が発生することがあるため、オーディオループバックをオフにしてご使用ください。</p> <p>NOTE</p> <ul style="list-style-type: none"> Bluetoothまたは[AUX IN]端子で接続した機器には出力されません。 この楽器でのオーディオソング再生音は、この設定がオンのときは外部機器に出力されますが、オフのときは出力されません。 この楽器でのオーディオ録音では、この設定がオンのときはこれら外部機器から入力した音声も録音されますが、オフのときは録音されません。 	On (オン)/ OFF (オフ)	On (オン)

ファンクション番号	機能		設定範囲	初期設定
F84	バージョン表示	この楽器のファームウェアのバージョンを表示します。 (表示例) バージョン1.00 の場合 	—	—
F85	(グランドピアノのみ) 起動時のモード	電源を入れたときに、消音モード(Qt)で起動するか、アコースティックモード(Aco)で起動するかを選びます。	Qt/Aco	Qt

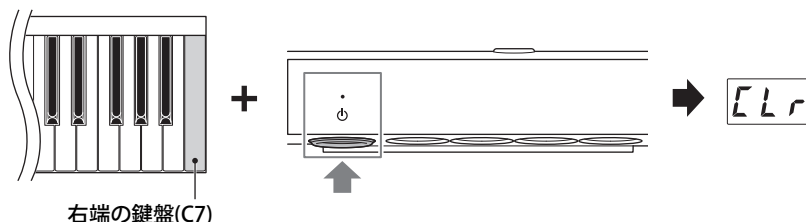
用語解説

用語	説明
VRM (Virtual Resonance Modeling/バーチャル・レゾナンス・モデリング)	アコースティックピアノでは、ダンパーペダルを踏んで演奏すると、弾いた鍵盤の音が伸びるだけでなく、その鍵盤の弦の振動が他の弦や響板へ伝わっていき、それぞれが影響しあって豊かで華やかな共鳴音が広がります。この楽器に搭載されたVRMは、そのような弦と響板の複雑な相互作用を、仮想的な楽器(物理モデル)の上で忠実に再現することで、よりアコースティックピアノに近い響きを作り出します。鍵盤やペダルの状態に合わせて、瞬間ごとの共鳴音を作り出しているため、鍵盤を押さえるタイミングや、ペダルを踏むタイミングと深さを変えることで、多彩な響きが得られます。
アリコート	他の弦と共振する、共鳴専用の弦をアリコートといいます。他の弦と共振することで、倍音を響かせるので、豊かな響きが得られます。アリコートにはダンパーがなく消音されないため、鍵盤から手を離しても、アリコートの響きが残ります。
グランド・エクスプレッション・モデリング	アコースティックピアノでは、鍵盤を押してから離すまでのタッチを変えることにより、音を微妙に変化させることができます。たとえば、鍵盤を底までしっかり押せば、鍵盤が棚板(鍵盤下の板)に当たってコツンと鳴り、その衝撃が弦に伝わって音がわずかに変化します。また、音が消える寸前(ダンパーが弦に触れる瞬間)の音も、鍵盤から指を離す速さにより微妙に変化します。このようなタッチによる音の微妙な違いを再現する技術がグランド・エクスプレッション・モデリングです。強めのタッチでアクセントを付けたり、やわらかなタッチで輝かしい響きを付けたり、と多彩な音色を奏することができます。また、スタッカートで弾いたときには歯切れのいい音を、ゆっくり指を離れたときには長く余韻を残す音を表現できます。
ダンパーノイズ	アコースティックピアノでダンパーペダルを踏んだ時に生じるノイズ音です。ダンパーノイズは、ダンパーペダルを踏む速さによって、音色や音量が異なります。ダンパーペダルをゆっくり踏むと、ダンパーヘッドが弦から離れた際のノイズ音が小さく鳴ります。ダンパーペダルを勢いよく踏むと、その振動が弦に伝わり、低い大きなノイズ音が混じります。

設定を工場出荷時の状態に戻す(初期化)

TA3 TC3 SH3 SC3

右端の鍵盤(C7)を押したまま[⏻] (スタンバイ/オン)スイッチを押して電源を入れます。「CLr」が表示され、バックアップデータ(下記参照)が工場出荷時の値に戻ります。ソングファイルの言語の設定とBluetoothのペアリング情報と、ユーザーソングは初期化されません。



ご注意

「CLr」が表示されている間は電源を切らないでください。ユーザーソングや内蔵メモリーが壊れるおそれがあります。

NOTE

この楽器の操作ができなくなったり、この楽器が誤動作したりした場合は、いったん電源を切り、初期化をしてください。

バックアップデータ

下記の設定は、この楽器の内蔵メモリーに自動的に保存(バックアップ)されます。これらの設定と内蔵メモリーに保存されたユーザーソングは、電源を切っても記憶されています。

- Bluetooth機能のオン/オフ(ファンクションF7.5)
- オートパワーオフの設定(ファンクションF8.1)
- グランドピアノ起動時のモード設定(ファンクションF8.5)
- バックアップ オン/オフ(音色、その他)の設定(ファンクションF7.3~F7.4)
- ソングファイルの言語の設定 (35ページ)
- Bluetoothのペアリング情報 (56ページ)
- (ファンクションF7.3がオンの場合のみバックアップ) 音色に関わる設定 *対象の設定はF7.3の説明参照
- (ファンクションF7.4がオンの場合のみバックアップ) 演奏全般に関わる設定 *対象の設定はF7.4の説明参照

⚠ 注意

ほかの機器と接続するときは、すべての機器の電源を切った上で行ってください。また、電源を入れたり切ったりする前に、必ず機器のボリュームを最小(0)にしてください。感電、聴覚障害または機器の損傷の原因になります。

USB機器を接続する([USB TO DEVICE]端子)

TA3 TC3 SH3 SC3

[USB TO DEVICE]端子には、USBフラッシュメモリーやUSB無線LANアダプター(別売)を接続します。この楽器とUSBフラッシュメモリーでデータをやり取りしたり(22ページ)、USB無線LANアダプターを使ってスマートデバイスと無線通信したり(58ページ)できます。

[USB TO DEVICE]端子ご使用上の注意

この楽器には[USB TO DEVICE]端子があります。[USB TO DEVICE]端子にUSB機器を接続する場合は、以下のことをお守りください。

NOTE

USB機器の取り扱いについては、お使いのUSB機器の取扱説明書もご参照ください。

■ 使用できるUSB機器

- USBフラッシュメモリー
- USB無線LANアダプター(別売UD-WL01)

上記以外のUSB機器(ハブ、マウス、コンピューターのキーボードなど)は、接続しても使えません。

動作確認済みUSB機器については、下記ウェブサイトの「資料/データ」から確認できます。ご購入の前に確認ください。

<https://jp.yamaha.com/support/>

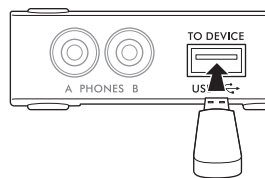
この楽器では、USB2.0または3.0の機器を使用できますが、機器への保存や機器からの読み込みにかかる時間は、データの種類やこの楽器の状態により異なりますのでご了承ください。

⚠ 注意

[USB TO DEVICE]端子の定格は、最大5V/500mAです。定格を超えるUSB機器は故障の原因になるため、接続しないでください。

■ USB機器の接続

[USB TO DEVICE]端子の形状に合うプラグを上下の向きに注意して差し込んでください。



⚠ 注意

- USB機器の抜き差しは、再生や録音中、ファイル操作中(コピー/削除/フォーマットなど)、およびUSB機器へのアクセス中には行わないでください。この楽器の動作が停止したり、USB機器やデータが壊れたりするおそれがあります。
- USB機器の抜き差しは、数秒間隔を空けて行ってください。
- USB機器の接続にケーブルは使わないでください。

USBフラッシュメモリーの取り扱いについて

この楽器にUSBフラッシュメモリーを接続すると、この楽器での演奏(アコースティックピアノの音を除く)をUSBフラッシュメモリーに録音したり(27ページ)、USBフラッシュメモリーのデータをこの楽器で再生したりできます(22ページ)。

■ 接続できるUSBフラッシュメモリーの数

同時に使用できるUSBフラッシュメモリーは、1台のみです。

■ USBフラッシュメモリーのフォーマット

USBフラッシュメモリーはこの楽器でフォーマット(53ページ)することをおすすめします。他の機器でフォーマットしたUSBフラッシュメモリーは、この楽器で正しく動作しない場合があります。

⚠ 注意

フォーマットを実行すると、そのUSBフラッシュメモリーの中身は消去されます。必要なデータが入っていないのを確認してからフォーマットしてください。

■ 誤消去防止

USBフラッシュメモリーには、誤ってデータを消してしまわないようライトプロテクト機能付きのがあります。大切なデータが入っている場合は、ライトプロテクトで書き込みができないようにしましょう。逆にデータを保存する場合は、ご使用前にお使いのUSBフラッシュメモリーのライトプロテクトが解除されていることをご確認ください。

■ USBフラッシュメモリー接続時に電源を切るには

電源を切る場合は、再生/録音やファイル操作(コピー/削除/フォーマットなど)によるUSBフラッシュメモリーへのアクセス中でないことを確認してください。USBフラッシュメモリーやデータが壊れたりするおそれがあります。

USBフラッシュメモリーをフォーマット(初期化)する

TA3 TC3 SH3 SC3

この楽器に接続したUSBフラッシュメモリーは以下の操作でフォーマットできます。「UnF」と表示された場合は、USBフラッシュメモリーをフォーマットしてください。

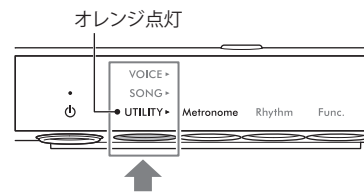
ご注意

フォーマットを実行すると、USBフラッシュメモリーに保存されているデータがすべて消去されます。大切なデータはコンピューターなど、ほかの記憶装置に保存しておいてください。

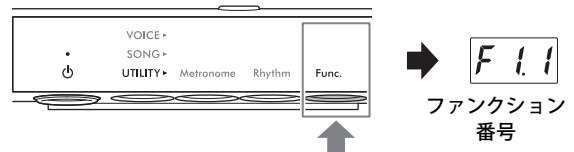
5
ほかの機器と接続する

1 [USB TO DEVICE] 端子にUSBフラッシュメモリーを接続します。

2 メニューボタンをくり返し押しして、[UTILITY]ランプをオレンジ色に点灯させます。



3 ボタン3 [Func.] を押ししてファンクション番号を表示させます。



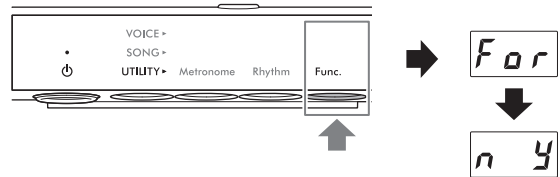
4 [VALUE]つまみを回して「F5.6」(USBフラッシュメモリーのフォーマット)を選びます。



5 ボタン3 [Func.] を押しして「For」と表示させます。そのあと、「ny」と表示されます。

NOTE

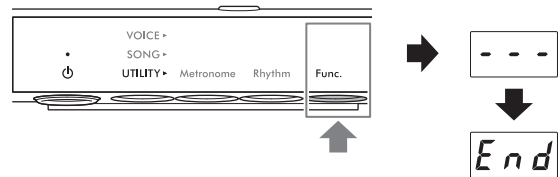
「ny」と表示されているときにボタン3 [Func.]以外を押すと、フォーマットを中止できます。



6 「ny」が表示されたら、ボタン3 [Func.] を押ししてフォーマットを実行します。

実行中であることを示すダッシュ「---」が表示されます。

フォーマットが終わると、「End」が表示されます。



ご注意

フォーマットの実行中(ダッシュ表示中)はUSBフラッシュメモリーを抜いたり、楽器の電源を切ったりしないでください。USBフラッシュメモリーが壊れるおそれがあります。

外部オーディオ機器と接続する

楽器の電子音を外部機器から鳴らす(AUX OUT [R]/[L/L+R]端子)

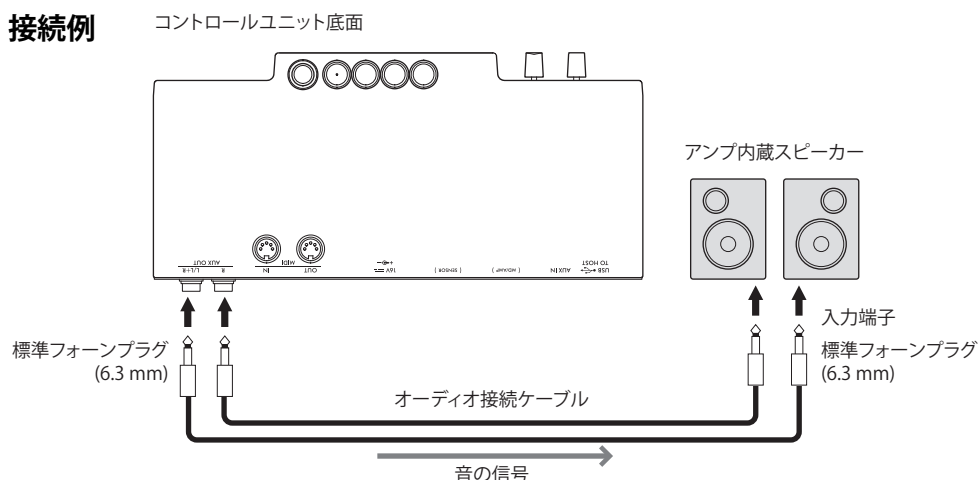
TA3 TC3 SH3 SC3

オーディオ接続ケーブルを使って、AUX OUT [R]/[L/L+R]端子に、アンプ内蔵スピーカーやステレオシステムを接続すると、この楽器での演奏(電子音)を外部機器のスピーカーから鳴らせます。また、ICレコーダーなどのオーディオ録音機器を接続すれば、この楽器での演奏を録音できます。

ご注意

外部機器の損傷を防ぐため、この楽器の音を外部機器に出力するときは、最初にこの楽器、次に外部機器の順に電源を入れてください。電源を切るときは、最初に外部機器、次にこの楽器の順に行ってください。

接続例



NOTE

- AUX OUT端子から出力される音量は、この楽器の[VOLUME]つまみで調整できます。
- AUX OUT端子からは、アコースティックピアノの音は出力されません。
- モノ出力の場合(スピーカーを1台だけ使う場合)には、[L/L+R]端子をお使いください。
- 接続した外部機器でこの楽器の音を鳴らしながら、この楽器に接続したヘッドホンでも音を聞く場合は、バイノーラルの設定をオフにすることをおすすめします。オン/オフはファンクションF4.1 (46ページ)で設定できます。

外部オーディオ機器での再生音を楽器から鳴らす([AUX IN]端子)

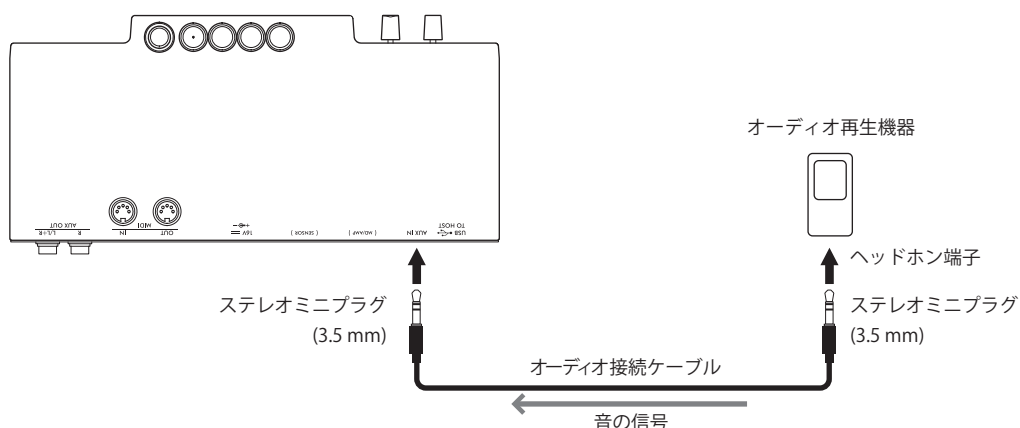
TA3 TC3 SH3 SC3

オーディオ接続ケーブルを使って、[AUX IN]端子にスマートフォンや携帯音楽プレーヤーなどのオーディオ再生機器を接続すると、接続した機器で再生した音をこの楽器から鳴らせます。消音モード(16ページ)ではヘッドホンから、トランスアコースティックモードやレイヤーモード(18、19ページ)では響板から、[AUX IN]端子に入力された音が聞こえます。

ご注意

- 外部機器の損傷を防ぐため、外部機器の音をこの楽器に入力するときは、最初に外部機器、次にこの楽器の順に電源を入れてください。電源を切るときは、最初にこの楽器、次に外部機器の順に行ってください。
- この楽器のAUX OUT端子から出力した音を、この楽器の[AUX IN]端子に戻さないでください。オーディオ信号のフィードバック(発振)が起こり、この楽器および接続した機器が故障する原因になります。

接続例 コントロールユニット底面

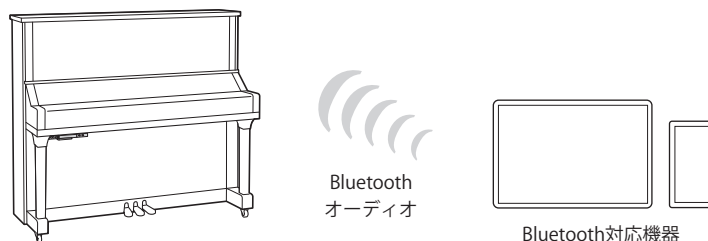


NOTE

- オーディオ接続ケーブルおよび変換プラグは、抵抗のないものをお使いください。
- この楽器は、[AUX IN]端子からの入力音の余分なノイズをカットする機能(ノイズゲート)を搭載しています。この機能は、本来ノイズではないピアノの減衰音のような小さな音をノイズとみなしてカットしてしまうことがあります。その場合は、ファンクションF8.2 (49ページ)でAUX INノイズゲートをオフにしてください。

Bluetooth対応機器でのオーディオ再生音を楽器から鳴らす (Bluetoothオーディオ機能)

スマートデバイス(スマートフォン、タブレット端末)や携帯音楽プレーヤーなどのBluetooth対応機器と接続すると、その機器で再生するオーディオデータをこの楽器から鳴らせます。消音モード(16ページ)ではヘッドホンから、トランスアコースティックモードやレイヤーモード(18、19ページ)では響板から、Bluetooth対応機器での再生音が聞こえます。機能を使う前に、必ず8ページの「Bluetoothに関するお知らせ」をお読みください。

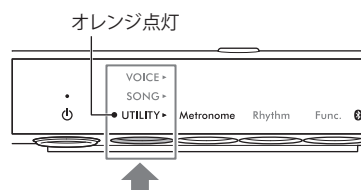


NOTE

本書では、Bluetoothによりオーディオデータを送信できる機器のことをBluetooth対応機器といいます。Bluetooth対応機器は、A2DP (Advanced Audio Distribution Profile)に対応している必要があります。

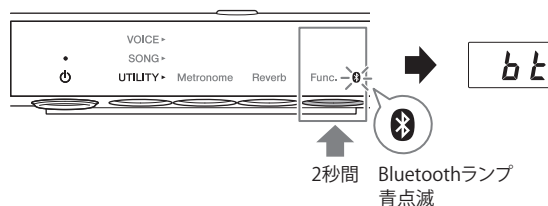
なお、この楽器からBluetooth対応機器にオーディオデータを送信することはできないため、BluetoothヘッドホンやBluetoothスピーカーには接続できません。

- メニューボタンをくり返し押しして、[UTILITY]ランプをオレンジ色に点灯させます。



2 ボタン3 [Func.]を2秒間長押ししてペアリング待機状態にします。

Bluetoothランプが青色で点滅し、ディスプレイに「bt」と表示されます。



NOTE

- ペアリングとは、Bluetooth対応機器をこの楽器に登録し、無線通信できるように設定することをいいます。
- ペアリングするにはBluetooth機能がオン(Bluetoothランプが白色で点灯)になっている必要があります。初期設定ではオンです。オン/オフの設定は、ファンクションF7.5 (49ページ)で変更できます。Bluetoothランプは、Bluetooth対応機器と未接続の場合はUTILITYが選ばれているときのみ点灯します(VOICEやSONGでは消灯)。
- この楽器は、最大8台のBluetooth対応機器とペアリング(登録)できますが、同時に接続できるのは1台のみです。9台目の機器とのペアリングが成功すると、接続した日時がもっとも古い機器のペアリングが削除されます。
- ファンクション F7.6 (49ページ)でもペアリングすることができます。ファンクションでペアリング待機状態にしたら、手順3の操作をしてください。
- ペアリングを中止するには、「bt」の表示中にボタン3 [Func.]を押します。

3 Bluetooth対応機器のBluetooth機能をオンにし、接続先リストから「YAMAHA *** AUDIO」(***)は機種名)を選びます。

操作方法は、Bluetooth対応機器の取扱説明書でご確認ください。ペアリングが完了すると、Bluetoothランプが青色で点灯し、「bt」の表示が消えます。

NOTE

- Bluetooth対応機器側の設定は5分以内に行ってください。5分を経過すると、ペアリング待機状態が自動的に終了します。
- パスキーの入力を要求された場合は、数字で「0000」を入力してください。

4 Bluetooth対応機器でオーディオデータを再生し、この楽器から音が出ることを確認します。

1度ペアリングしたBluetooth対応機器は、再度ペアリングの必要はありません。次にこの楽器の電源を入れたとき、この楽器とBluetooth対応機器のBluetooth機能がオンであれば、前回最後に接続した機器と自動で接続します。自動で接続されない場合は、Bluetooth対応機器の接続先リストから再度この機種を選んでください。

NOTE

Bluetooth対応機器からの入力音の音量は、この楽器の[VOLUME]つまみで調節できます。鍵盤演奏とのバランスを調整したい場合は、Bluetooth対応機器側で音量を調節してください。

スマートデバイスアプリ「スマートピアニスト」と接続する

TA3 TC3 SH3 SC3

スマートフォンやタブレット端末などのスマートデバイスと接続してアプリ「スマートピアニスト」を使うと、スマートデバイス上にプリセットソングの譜面を表示したり、スマートデバイスに演奏を録音するなどできます。また、設定内容をわかりやすい表示で確認できて便利です。



詳しくは、スマートデバイスで左のコードを読み取ってアプリの紹介ページでご確認ください。読み取れない場合は、下記のウェブサイトアクセスし、「Smart Pianist」(スマートピアニスト)のページでご確認ください。

<https://jp.yamaha.com/kbdapps/>

スマートピアニストをスマートデバイスにインストールしたら、この楽器に接続して使ってみましょう。スマートデバイスは、USBケーブル、Bluetooth、またはWi-Fiで接続します。

ご注意

- スマートピアニストに接続すると、楽器の設定は、スマートピアニストで設定した内容に変更されます。
- スマートデバイスを不安定な場所に置かないでください。スマートデバイスが落下して破損するおそれがあります。

USBケーブルで接続する

USBケーブルを使って[USB TO HOST]端子に接続します。接続方法は、ウェブサイト(3ページ)上の「スマートピアニスト ユーザーガイド」でご確認ください。

ご注意

USBケーブルは、ABタイプで3メートル未満のケーブルをご使用ください。USB 3.0ケーブルは使用できません。

Bluetoothで接続する

Bluetoothで接続する前に、必ず8ページの「Bluetoothに関するお知らせ」をお読みください。

NOTE

- Bluetoothで接続するにはBluetooth機能がオン(Bluetoothランプが点灯)になっている必要があります。初期設定ではオンです。Bluetoothオン/オフの設定は、ファンクションF7.5 (49ページ)で変更できます。
- Bluetoothでの接続では、この楽器からスマートデバイスにオーディオデータを送信することはできません。そのため、演奏をスマートピアニストに録音する場合は、MIDI形式で録音してください。オーディオ形式で録音したい場合は、Bluetooth以外の方法で接続してください。

1 この楽器上で、オーディオデータを受信するためのBluetoothオーディオ機能の設定をします(55ページ)。

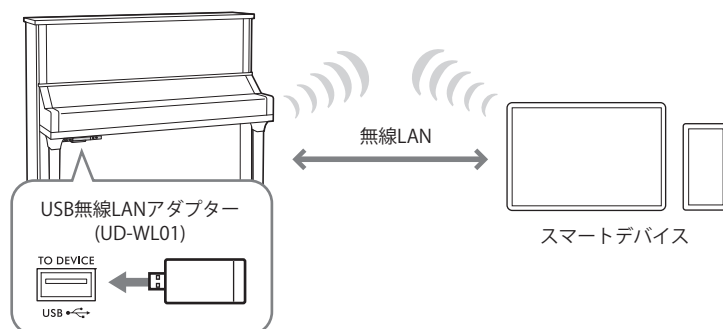
2 スマートピアニストを使って、Bluetooth MIDIによりこの楽器と接続します。
接続方法は、ウェブサイト(3ページ)上の「スマートピアニスト ユーザーガイド」でご確認ください。接続に成功するとMIDIデータを送受信できるようになります。

Wi-Fi (無線LAN)で接続する

Wi-Fi接続には、別売のUSB無線LANアダプター (UD-WL01)が必要です。USB無線LANアダプターを使う前に必ず「USB機器を接続する」(52ページ)をご覧ください。

ご注意

本製品をインターネットに接続する場合は、セキュリティを保つため必ずルーターなどを経由し接続してください。経由するルーターなどには適切なパスワードを設定してください。電気通信事業者(移动通信会社、固定通信会社、インターネットプロバイダーなど)の通信回線(公衆回線LANを含む)には直接接続しないでください。



無線LANでの接続には以下2つのモードがあります。接続方法は、ウェブサイト(3ページ)上の「スマートピアニストユーザーガイド」でご確認ください。

■ アクセスポイントモードによる接続

アクセスポイントを経由せずに、直接無線LANアダプターとスマートデバイスを接続します。接続できるアクセスポイントがない場合や、スマートデバイスとの接続中にほかのネットワークに接続する必要がない場合に、この方法で接続します。スマートデバイスはインターネットに接続できないため、スマートピアニストの一部機能が制限されます。インフラストラクチャーモードからアクセスポイントモードに切り替える場合は、接続前に、この楽器をいったん初期化してください(51ページ)。

■ インフラストラクチャーモードによる接続(WPSによる接続)

アクセスポイントを経由して、USB無線LANアダプターとスマートデバイスを接続します。スマートデバイスとの接続中にほかのネットワークにも接続する場合に、この方法で接続します。

接続操作中にこの楽器のディスプレイに右のような表示が現れたら、2分以内にアクセスポイントのWPSボタンを押してください。



NOTE

アクセスポイントとは、無線LANで電波のやりとりを行うときの基地局となる機器です。ルーターやモデムと一体になっている場合もあります。

コンピューターと接続する([USB TO HOST]端子)

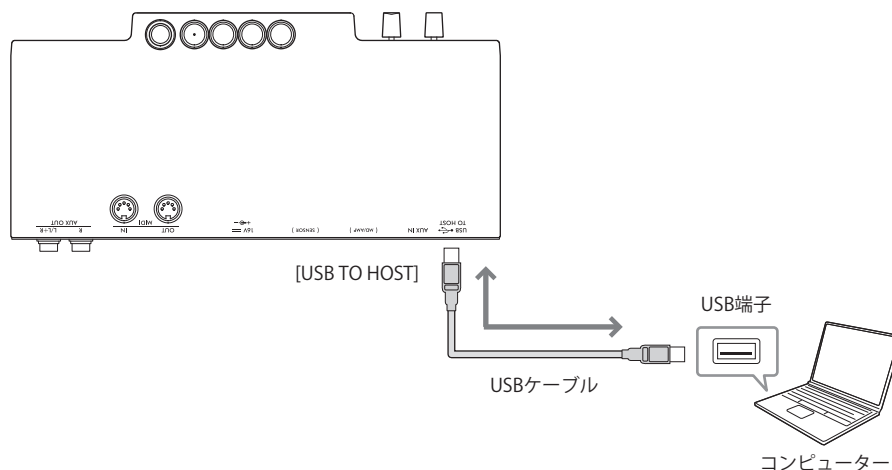
TA3 TC3 SH3 SC3

USBケーブルを使って、[USB TO HOST]端子にコンピューターを接続すると、この楽器とコンピューター間でMIDIデータやオーディオデータを送受信できます。接続方法やデータの送受信について詳しくは、ウェブサイト(3ページ)上の「コンピューターとつなぐ」をご覧ください。

⚠ 注意

DAW (Digital Audio Workstation) などの音楽制作アプリケーションと一緒に使用する場合、設定によっては大きな音が発生することがあるため、オーディオレベルバックをオフにしてご使用ください(49ページ)。

接続例 コントロールユニット底面



5

ほかの機器と接続する

ご注意

- USBケーブルは、ABタイプのもをご使用ください。また、3メートル未満のケーブルをご使用ください。USB3.0ケーブルは使用できません。
- コンピューターを不安定な場所に置かないでください。落下して破損するおそれがあります。

NOTE

- USBケーブルで接続する際、ハブを経由せず直接接続してください。
- コンピューターとの接続後、しばらくしてから通信を開始します。
- 使用するコンピューターやシーケンスソフトウェアでの必要なMIDI設定については、それぞれの取扱説明書をお読みください。
- グランド・エクスペリション・モデリング(50ページ)に関連するMIDIデータを編集すると予期せぬ音が生じる場合があります。

オーディオデータを送受信する(USBオーディオインターフェース機能)

USBケーブルを使って、コンピューターやスマートデバイスを[USB TO HOST]端子に接続すると、オーディオデータをデジタルで送受信できます。これをUSBオーディオインターフェース機能といい、たとえば次のようなことができます。

■ コンピューター上でのオーディオ再生をこの楽器から高音質で出力

[AUX IN]端子での接続と比べて、音質の劣化が少なくクリアな音質で楽しめます。

■ この楽器での演奏(電子音)をコンピューター上の録音ソフトや音楽制作ソフトに録音

録音したデータは、コンピューターやスマートデバイスで再生できます。

NOTE

- オーディオデータの送受信をWindows搭載のコンピューターで行う場合は、Yamaha Steinberg USB Driverをコンピューターにインストールする必要があります。詳しくは、ウェブサイト(3ページ)上の「コンピューターとつなぐ」をご覧ください。
- 楽器へのオーディオデータの入力音の音量は、コンピューターまたはスマートデバイス側で調節してください。

オーディオループバックのオン/オフを設定する

USBオーディオインターフェース機能(59ページ)またはスマートピアニストとの無線LAN接続(58ページ)により、コンピューターやスマートデバイスからこの楽器へ入力したオーディオ再生音を、この楽器での演奏音とともにコンピューターやスマートデバイスに出力する(オーディオループバックする)かどうかを設定できます。たとえば、コンピューターやスマートデバイスを使って、楽器での演奏音だけでなく楽器へ入力したオーディオ再生音も録音したい場合はオンに、楽器での演奏音だけを録音したい場合はオフにします。初期設定はオンです。オーディオループバックのオン/オフは、ファンクションF8.3で設定できます(49ページ)。

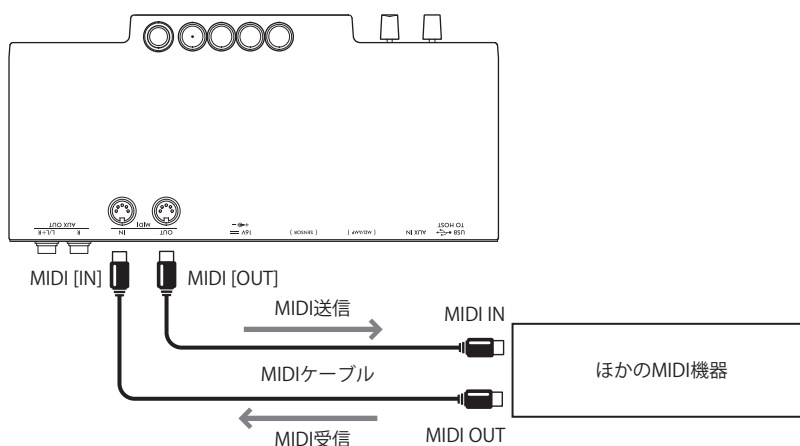
MIDI機器と接続する(MIDI [IN]/[OUT]端子)

TA3 TC3 SH3 SC3

MIDIケーブルを使って、この楽器とほかのMIDI機器(キーボード、シンセサイザー、シーケンサーなど)のMIDI端子を接続すると、この楽器からほかのMIDI機器をコントロールしたり、ほかのMIDI機器からこの楽器をコントロールしたりできます。

- **MIDI [IN]:** MIDIデータを受信する端子です。
- **MIDI [OUT]:** MIDIデータを送信する端子です。

接続例 コントロールユニット底面



NOTE

- ウェブサイト(3ページ)上で、MIDIについての基礎知識を説明した「MIDI入門」をご覧ください。
- MIDI機器によって、扱えるMIDIデータが異なり、接続しているMIDI機器同士で共通に扱えるデータだけが送受信できます。この楽器が扱えるMIDIデータは、ウェブサイト(3ページ)上の「MIDIリファレンス」でご確認ください。
- 音色デモソングやプリセットソングのデータは送信できません。
- スマートピアニストとの接続中は、MIDI [OUT]端子からMIDIデータは送信できません。
- この楽器から外部機器にMIDIデータを送信すると、グラウンド・エクスペッション・モデリング(50ページ)に関連するMIDIデータにより、予期せぬ音が生じることがあります。

資料

メッセージ一覧

メッセージ	説明
bt	この楽器とスマートデバイスをBluetoothで接続するため、ペアリング待機中です(56ページ)。このメッセージの表示中は、楽器を操作できません。
CLR	楽器を初期化しています(51ページ)。このメッセージの表示中は、電源を切らないでください。
CON	この楽器とスマートデバイスを接続してアプリ「スマートピアニスト」を使用しています(57ページ)。このメッセージの表示中は、スマートピアニストで操作してください。接続を解除するには、スマートデバイスでスマートピアニストを終了させてください。
E01	言語設定(35ページ)が、選択しようとしているソングのファイル名に合っていません。言語を切り替えてください。
	この楽器では対応していないデータ形式です。または、データに問題があるため選択できません。
	コピー先のUSBフラッシュメモリの容量やファイル数がいっぱいです。USBフラッシュメモリ内の不要なソングやファイルを削除(33ページ)してから操作してください。
	この楽器ではコピーや削除ができないソングが選ばれています。コンピューターを使ってコピーまたは削除をしてください。
	USBフラッシュメモリが見つかりません。または、USBフラッシュメモリに異常が発生しました。USBフラッシュメモリを接続し直してから、操作を実行してください。ほかに問題がないのに、このメッセージがくり返し表示される場合は、USBフラッシュメモリが壊れている可能性があります。
E02	USBフラッシュメモリにライトプロテクトがかかっています。ライトプロテクトを解除してからお使いください。
E03	USBフラッシュメモリの空き容量が不足しています。またはファイルやフォルダーの数が制限を超えました。
E04	オーディオソングの再生/録音に失敗しました。録音や削除をくり返し行ったUSBフラッシュメモリーは、必要なデータが入っていないのを確認の上フォーマット(53ページ)してからお使いください。
E05	(TA3/TC3のみ) 室内が高温のため、トランスアコースティックモードで演奏できません。楽器を設置している部屋の温度を下げてからお使いください。
EE1 ~ EE6	楽器に異常が発生しました。巻末のヤマハ修理ご相談センターに点検をご依頼ください。
End	処理が終わりました。
ENP	楽器の内蔵メモリーまたはUSBフラッシュメモリーの空き容量が少なくなりました。録音を始める前に不要なユーザーソングを削除(33ページ)して、空き容量を確保することをおすすめします。
FULL	楽器の内蔵メモリーまたはUSBフラッシュメモリーの空き容量が不足しているため、データの処理ができません。録音中にこのメッセージが表示されたときは、演奏データが正しく保存されない場合があります。
NY	ユーザーソングの削除(33ページ)またはUSBフラッシュメモリーのフォーマット(53ページ)を実行するかどうかの確認です。ボタン3 [Func.]を押すと実行します。ボタン3 [Func.]以外を押すと操作をキャンセルできます。

メッセージ	説明
<i>Pr o</i>	プロテクトがかかったソングのため、データの削除や上書きはできません。
<i>UnF</i>	フォーマットされていないUSBフラッシュメモリーが接続されています。必要なデータが入っていないのを確認してからフォーマットしてください(53ページ)。
<i>UoC</i>	USBフラッシュメモリーに過電流が流れたため、USBフラッシュメモリーとの通信を停止しました。USBフラッシュメモリーを[USB TO DEVICE]端子から抜き、この楽器の電源を入れ直してください。
<i>UU1</i>	USBフラッシュメモリーにアクセスできません。USBフラッシュメモリーをいったん外し、接続し直してください。それでもこのメッセージが表示される場合は、別のUSBフラッシュメモリーをお使いください。
<i>UU2</i>	接続されたUSBフラッシュメモリーは、この楽器では使えません。または接続できるUSBフラッシュメモリーの数が制限を超えました。「USBフラッシュメモリーの取り扱いについて」をご覧ください(52ページ)。
<i>WPS</i>	この楽器とスマートデバイスをWPSで接続するため、待機状態になっています(58ページ)。このメッセージの表示中は、楽器を操作できません。
<i>W.P.S.</i>	WPSでの接続待機中(58ページ)に異常が発生しました。USB無線LANアダプター (UD-WL01)を差し直して、再度接続してください。

* 処理中(データの保存中や送信中など)は、「-」→「-」→「-」→「-」…と表示されます。

* メッセージを消すには、いずれかのボタンを押してください。

故障かな？と思ったら

楽器が正常に動作しない場合は、下記の内容をご確認ください。問題が解決されなかったり、下記以外の異常がある場合は、巻末のお問い合わせ先にご連絡ください。ご自分で楽器の内部を開けたり、分解、改造したりしないでください。ディスプレイにメッセージが表示された場合は、メッセージ一覧(61ページ)をご確認ください。

現象	原因と解決法
電源が入らない。	電源アダプターや電源コードが正しく接続されていません。アダプターとプラグを確実に差し込んでください(12ページ)。
電源が勝手に切れる。	オートパワーオフ機能が働いたためです。必要に応じてオートパワーオフ機能をオフにしてください(14ページ)。
電源を入れても音が出ない。	音量が下がっています。[VOLUME]つまみを回して、適切な音量に調節してください(17、19ページ)。
	音色が「---」になっています。「---」以外の音色を選んでください(20ページ)。
	ローカルコントロールがオフになっています。ファンクションF7.2でローカルコントロールをオンにしてください(48ページ)。
アコースティックモードではないのに、鍵盤を弾くとアコースティックピアノの音が出る。	極度に強く打鍵すると、アコースティックピアノの音が出る場合があります。打鍵の強さを加減してください。
付属のヘッドホンと市販のヘッドホンでは、音のバランスや音量が異なる。	ヘッドホンの特性はそれぞれ異なるため、異なるヘッドホンで聞くと、音のバランスや音量が異なる場合があります。なるべく同じ仕様のものをお使いください。
消音モード/トランスアコースティックモードでの演奏時にピアノの本体から「カタカタ」という音が出る。	故障ではありません。アコースティックピアノ本来の打鍵音です。
消音モード/トランスアコースティックモード/レイヤーモードでの連打時に演奏と異なる強音が発音する。	故障ではありません。トランスアコースティック™ピアノまたはサイレントピアノ™の構造により、この音が発生する場合があります。
リズムがスタートしない。	シンクロスタートがオンになっています。鍵盤を押さえると同時にリズムがスタートします。シンクロスタートのオン/オフは、ファンクションF6.5で設定できます(48ページ)。
鍵盤を弾くと、再生中のメトロノーム、MIDIソング、リズムのテンポがわずかに乱れる。	グランド・エクスプレッション・モデリングが「ダイナミック」の場合に、ごくまれに起きる現象です。このような場合には、「スタティック」に変更してください(44ページ)。
リバーブがオンなのに効果がかからない。	リバーブの深さ(かかり具合)が小さく設定されています。ファンクションF1.2でリバーブのかかり具合を調節してください(43、44ページ)。
	(TA3/TC3のみ) [TA]ランプ点灯時(トランスアコースティックモードやレイヤーモード)は、リバーブは自動的にオフになり、リバーブはかかりません。
音が残りすぎる(リバーブがかかりすぎる)。	リバーブのかかり具合(ファンクションF1.2)またはダンパーレゾナンスのかかり具合(ファンクションF2.2)が極端に大きく設定されています。適度に調節してください(43、44ページ)。
雑音が出る。	近くで携帯電話を使ったり、呼び出し音が鳴ったりすると、雑音が発生する場合があります。携帯電話の電源を切るか、楽器から離れた場所でお使いください。
	近くでスマートデバイスを使うと、雑音が発生する場合があります。この楽器とスマートデバイスを無線で接続する場合は、通信によるノイズを避けるため、スマートデバイスの機内モードをオンにしてからWi-FiまたはBluetoothをオンにしてお使いいただくことをおすすめします。
ほかの楽器と音の高さが合わない。	楽器により音の高さは異なります。ファンクションF3.4で音の高さ(マスターチューニング)を調整して、ほかの楽器に合わせてください(45ページ)。

現象	原因と解決法
Bluetooth対応機器(スマートデバイスなど)と接続できない。	この楽器またはBluetooth対応機器のBluetooth機能がオフになっています。両方ともオンにしてください。この楽器のBluetooth機能は、ファンクションF7.5でオン/オフできます(49ページ)。
	楽器とBluetooth対応機器がペアリングできていません。ペアリングしてください(56ページ)。
	楽器とBluetooth対応機器の距離が離れすぎています。Bluetooth対応機器を楽器に近づけてください。
	2.4 GHz帯の電磁波を発するもの(電子レンジ、無線LAN機器など)が近くにありますが、電磁波を発するものからこの楽器を離してください。
Bluetoothで入力した音が途切れる。	Bluetooth対応機器側の音量(出力レベル)が小さく、入力音の余分なノイズをカットする機能(ノイズゲート)で小さな音がカットされることがあるためです。Bluetooth対応機器側の音量を上げてください。この楽器から出す音量は、[VOLUME]つまみで調節してください。
[AUX IN]端子から入力した音が途切れる。	[AUX IN]端子に接続した外部機器の音量(出力レベル)が小さいためです。[AUX IN]端子に接続した機器側の音量(出力レベル)を上げてください。この楽器から出す音量は、[VOLUME]つまみで調節してください。また、小さい音は、AUX INノイズゲート機能によりカットされる場合があるので、必要に応じてファンクションF8.2でその機能をオフにしてください(49ページ)。

音色一覧

表中の○は、その音色に下記のような特徴があることを示しています。

- **タッチ感度:** 鍵盤を弾く強さに応じて、音の強弱の付き方(タッチ感度)が変わります。
- **ステレオサンプリング:** ステレオサンプリングされた音色です。
- **キーオフサンプリング:** キーオフ音(鍵盤を離したときの微妙な発音)がサンプリングされた音色です。

NOTE

- 「ピアノ」の категорииの音色はVRMに対応しています。VRMについて詳しくは50ページをご覧ください。
- 「CFXグランド」と「ベーゼンドルファー」の音色はグランド・エクスプレッション・モデリングに対応しています。グランド・エクスプレッション・モデリングについて詳しくは50ページをご覧ください。

音色番号		音色名	説明	タッチ感度	ステレオサンプリング	キーオフサンプリング
TA3/SH3	TC3/SC3					
ピアノ						
PF1	PF1	CFXグランド	ヤマハコンサートグランドピアノCFXの音色です。弱く弾いた音から強く弾いた音までのダイナミックレンジが広く、表情豊かな演奏ができます。あらゆるジャンルの演奏に最適な音色です。バイノーラル(46ページ)の設定がオフのときに演奏できます。	○	○	○
		バイノーラル CFXグランド	ヤマハコンサートグランドピアノCFXをヘッドホン再生に適するようにバイノーラルサンプリング録音した音です。あたかも目の前でグランドピアノが鳴っているかのような臨場感をお楽しみいただけます。バイノーラル(46ページ)の設定がオンのときに演奏できます。			
PF2	PF2	ベーゼンドルファー	ウィナートーンで有名なベーゼンドルファー社のコンサートグランドピアノ、インペリアル音色です。ピアノの大きさを感じさせる広がりある音が特徴で、曲の優しさを表現するのに最適です。バイノーラル(46ページ)の設定がオフのときに演奏できます。	○	○	○
		バイノーラル ベーゼンドルファー	ウィナートーンで有名なベーゼンドルファー社のコンサートグランドピアノ、インペリアルをヘッドホン再生に適するようにバイノーラルサンプリング録音した音です。あたかも目の前でグランドピアノが鳴っているかのような臨場感をお楽しみいただけます。バイノーラル(46ページ)の設定がオンのときに演奏できます。			
PF3	—	ポップグランド	少し明るめなグランドピアノの音です。ポピュラー系の音楽に最適です。	○	○	○
PF4	—	バラードグランド	温かみのあるソフトなピアノの音です。バラードの演奏に最適です。	○	○	○
PF5	PF3	アップライトピアノ	ヤマハアップライトピアノSU7をサンプリングした個性的な音です。アップライトピアノ特有の軽快な音色をお楽しみください。	○	○	—

音色番号		音色名	説明	タッチ 感度	ステレオ サンプリ ング	キーオフ サンプリ ング
TA3/SH3	TC3/SC3					
フォルテピアノ						
FP1	—	スカラッティ ピアノ	18世紀前半にフィレンツェの楽器製作家が作ったピアノの音です。この製作家はピアノを発明した人物として知られています。スカラッティはこの製作家のピアノを使っていたと考えられます。明るく輝かしい音が特徴です。	○	○	○
FP2	—	モーツァルト ピアノ	18世紀後半にウィーンの楽器製作家が作ったピアノの音です。モーツァルトやベートーヴェンは、この製作家のピアノを高く評価し、演奏していました。輪郭のはっきりとした軽やかな音が特徴です。	○	○	—
FP3	—	ベートーヴェン ピアノ	19世紀前半にロンドンのピアノメーカーが作ったピアノの音です。ハイドンやベートーヴェンは、このメーカーのピアノに触発され、数々の名曲を生み出しました。低音の豊かさと高音のきらびやかさ、エネルギーあふれるフォルテッシモが特徴です。	○	○	○
FP4	—	ショパン ピアノ	19世紀にパリのピアノメーカーが作ったピアノの音です。ショパンは繊細なタッチを表現してくれるこのメーカーのピアノをととても愛しました。甘く時に切ない歌声のような音が特徴です。	○	○	—
エレピ						
EP1	EP1	ステージエレピ	音叉をハンマーでたたいて発音させるしくみの電気ピアノの音です。弱く弾いたときは柔らかく、強く弾くと芯のある音がします。	○	—	○
EP2	EP2	DXエレピ	FMシンセサイザーによる電子ピアノの音です。タッチの強弱に応じて音色の変化も楽しめます。ポピュラー音楽に最適です。	○	—	—
EP3	EP3	ビンテージエレピ	薄い金属片をハンマーでたたいて発音させるしくみの電気ピアノの音です。ロック、ポップスによく使われています。	○	—	○
ハーブシコード						
HS1	HS1	ハーブシコード8'	バロック音楽でよく使われるハーブシコードの音です。タッチによる音量変化はなく、鍵盤を離れたときには独特の発音があります。	—	○	○
HS2	—	ハーブシコード8'+4'	オクターブ上の音がミックスされたハーブシコードの音です。より華やかさが感じられます。	—	○	○
HS3	—	ビブラフォン	広がりがあり澄んだ音色の鉄琴の音です。左のペダルでビブラートのオン/オフを切り替えることができます。	○	○	—
HS4	HS2	チェレスタ	チェレスタ(鍵盤を弾くと、ハンマーが金属製の音板をたたいて音を出す打楽器)の音です。チャイコフスキーの組曲「くるみ割り人形」の「金平糖の踊り」での印象的なフレーズが有名です。	○	○	—

音色番号		音色名	説明	タッチ 感度	ステレオ サンプリ ング	キーオフ サンプリ ング
TA3/SH3	TC3/SC3					
オルガン						
Or 1	Or 1	オルガン プリンシパル	パイプオルガンのプリンシパル系(金管楽器系)の混合音栓の音(8フィート+4フィート+2フィート)です。バロック時代の教会音楽の演奏に適しています。	—	○	—
Or 2	—	オルガントウッティ	バッハの「トッカータとフーガ」で有名なパイプオルガンのフルカブラーの音です。	—	○	—
Or 3	Or 2	ジャズオルガン	ジャズやロックなどでよく用いられる電気オルガンの音です。左のペダルで、ロータリースピーカーの回転の速い/遅いを切り替えることができます。	—	—	—
パッド						
Pd 1	Pd 1	ストリングス	立ち上がりの緩やかな大編成弦楽アンサンブルの音です。	○	○	—
Pd 2	—	クワイア	空間に広がる心和む合唱の音です。スローな曲で和音の広がりが得られます。	○	○	—
Pd 3	Pd 2	シンセパッド	温かく広がりのあるシンセ音色です。	○	—	—
レイヤー						
LY 1	—	ピアノ+ストリングス	ピアノと弦楽アンサンブルの音を組み合わせせた音色です。オーケストラをバックにピアノを演奏する雰囲気を楽しむことができます。	○	○	○
LY 2	—	ピアノ+パッド	ピアノとシンセパッドの音を組み合わせせた音色です。	○	○	○
LY 3	—	ピアノ+DXエレピ	ピアノとDXエレピの音を組み合わせせた音色です。	○	○	○

ソング一覧

音色デモソング

ソング番号		音色名	ソング名	作曲家
TA3/SH3	TC3/SC3			
d01	d01	CFXグランド (バイノーラルCFXグランド)	24の前奏曲 第1番 Op.11 ハ長調	A. スクリャービン
d02	d02	ベーゼンドルファー (バイノーラルベーゼンドルファー)	献呈	F. リスト
d03	—	ポップグランド	オリジナル	—
d04	—	バラードグランド	オリジナル	—
d05	d03	アップライトピアノ	イタリア協奏曲 第1楽章	J. S. バッハ
d06	—	スカルラッチェピアノ	ソナタ ト長調 K.14 L.387	D. スカルラッチェ
d07	—	モーツァルトピアノ	ソナタ 第16 (15)番 ハ長調 K.545 第1楽章	W. A. モーツァルト
d08	—	ベートーヴェンピアノ	エリーゼのために	L. v. ベートーヴェン
d09	—	ショパンピアノ	ノクターン 第8番 op.27-2	F. F. ショパン
d.10	d04	ステージエレピ	オリジナル	—
d.11	d05	DXエレピ	オリジナル	—
d.12	d06	ビンテージエレピ	オリジナル	—
d.13	d07	ハーブシコード8'	チェンバロ協奏曲 第7番 ト短調 BWV 1058 第1楽章	J. S. バッハ
d.14	—	ハーブシコード8'+4'	フランス組曲 第5番 ジーグ BWV 816	J. S. バッハ
d.15	—	ビブラフォン	オリジナル	—
d.16	d08	チェレスタ	金平糖の踊り (くるみ割り人形)	P. I. チャイコフスキー
d.17	d09	オルガン プリンシパル	神のひとり子なる主キリスト (オルガン小曲集)	J. S. バッハ
d.18	—	オルガン トゥッチェ	オリジナル	—
d.19	d.10	ジャズオルガン	オリジナル	—
d20	d.11	ストリングス	オリジナル	—
d21	—	クワイア	オリジナル	—

ソング番号		音色名	ソング名	作曲者
TA3/SH3	TC3/SC3			
d.22	d.12	シンセパッド	オリジナル	—
d.23	—	ピアノ+ストリングス	オリジナル	—
d.24	—	ピアノ+パッド	オリジナル	—
d.25	—	ピアノ+DXエレピ	オリジナル	—

デモ曲は、原曲から編集/抜粋されています。「オリジナル」はヤマハのオリジナル曲です。© Yamaha Corporation

プリセットソング

ソング番号	ソング名	作曲者
アレンジ曲		
P.01	カノン	J. パッヘルベル
P.02	G線上のアリア	J. S. バッハ
P.03	主よ、人の望みの喜びよ	J. S. バッハ
P.04	きらきら星	トラディショナル
P.05	ピアノソナタ 第17番 「テンペスト」 第3楽章	L. v. ベートーヴェン
P.06	歓喜の歌	L. v. ベートーヴェン
P.07	子守唄	F. P. シューベルト
P.08	華麗なる大円舞曲	F. F. ショパン
P.09	英雄ポロネーズ	F. F. ショパン
P.10	ラ・カンパネラ	F. リスト
P.11	愛のあいさつ	E. エルガー
P.12	家路	A. ドヴォルザーク
P.13	シシリエンヌ	G. U. フォーレ
P.14	月の光	C. A. ドビュッシー
P.15	木星 (組曲「惑星」)	G. ホルスト

ソング番号	ソング名	作曲者
連弾曲		
P.16	メヌエット (アイネ・ク ライネ・ナハトムジーク)	W. A. モーツァルト
P.17	メヌエット ト長調	L. v. ベートーヴェン
P.18	トルコ行進曲	L. v. ベートーヴェン
P.19	ピアノ協奏曲 第1番 第2楽章	F. F. ショパン
P.20	くるみ割り人形メドレー	P. I. チャイコフスキー
原曲		
P.21	前奏曲 (平均律第1巻第1番)	J. S. バッハ
P.22	メヌエット ト長調	J. S. バッハ
P.23	ピアノソナタ 第15番 第1楽章	W. A. モーツァルト
P.24	トルコ行進曲	W. A. モーツァルト
P.25	ピアノソナタ 第8番 「悲愴」 第2楽章	L. v. ベートーヴェン
P.26	エリーゼのために	L. v. ベートーヴェン
P.27	ピアノソナタ 第14番 「月光」 第1楽章	L. v. ベートーヴェン
P.28	即興曲 作品90 第2番	F. P. シューベルト

ソング番号	ソング名	作曲者
P.29	春の歌	J. L. F. メンデルスゾーン
P.30	幻想即興曲	F. F. ショパン
P.31	別れの曲	F. F. ショパン
P.32	革命のエチュード	F. F. ショパン
P.33	小犬のワルツ	F. F. ショパン
P.34	ノクターン 第2番 変ホ長調	F. F. ショパン
P.35	ノクターン 第20番 嬰ハ短調 [遺作]	F. F. ショパン
P.36	トロイメライ	R. シューマン
P.37	舟歌	P. I. チャイコフスキー
P.38	乙女の祈り	T. バダジェフスカ
P.39	愛の夢 第3番	F. リスト

ソング番号	ソング名	作曲者
P.40	花の歌	G. ランゲ
P.41	ユーモレスク	A. ドヴォルザーク
P.42	アリエッタ	E. H. グリーグ
P.43	タンゴ (スペインより)	I. アルベニス
P.44	エンターテイナー	S. ジョプリン
P.45	メイプル・リーフ・ラグ	S. ジョプリン
P.46	亜麻色の髪の乙女	C. A. ドビュッシー
P.47	アラベスク 第1番	C. A. ドビュッシー
P.48	ケーキウォーク	C. A. ドビュッシー
P.49	ジユトゥヴ	E. サティ
P.50	ジムノペディ 第1番	E. サティ

仕様

(*)この印がある項目は、ソステヌートペダルがある場合のみ

		TA3	TC3	SH3	SC3	
品名		トランスアコースティック™ ピアノ		サイレントピアノ™		
消音システム	消音方式	ハンマーシャックストッパー方式 (グランドピアノ:電動式または消音レバー、 アップライトピアノ:消音レバー*または消音ペダル)				
	アクション(グランドピアノのみ)	クイックエスケープ方式	—	クイックエスケープ方式		
響板駆動システム	駆動方式	トランスアコースティック™技術		—		
	トランスデューサー	TA3専用	TC3専用	—		
操作子	鍵盤	タッチ感度				
	ペダル	ダンパー、ソステヌート*または消音、ソフト				
	ディスプレイ	タイプ				
	パネル	言語				
センサー	鍵盤センサー	システム				
		キーボード部				
		ハンマー部 (グランドピアノのみ)	非接触 2点検出 光ファイバー タイプ	—	非接触 2点検出 光ファイバー タイプ	—
	ペダルセンサー	ダンパーペダル				
		ソステヌートペダル*	オン/オフ検出	—	オン/オフ検出	—
		ソフトペダル	オン/オフ検出			
音源/音色	音源	ピアノ音				
		ヤマハCFXサンプリング、 ベーゼンドルファー インベリアルサンプリング				
	バイノーラルサンプリング	○(「CFXグランド」「ベーゼンドルファー」のみ)				
	ピアノ音源の 効果	バーチャル・レゾナンス・ モデリング(VRM)	○			
		グランド・エクプレッション・ モデリング	○			
		キーオフサンプリング	○			
		スムーズリリース	○			
	最大同時発音数		256			
	プリセット	音色数	25 (ピアノ5、フォルテピアノ4、 その他音色16)	12 (ピアノ3、 その他音色9)	25 (ピアノ5、フォルテピアノ4、 その他音色16)	12 (ピアノ3、 その他音色9)
	ソング再生用音色		480 XG音色 + 12ドラム/SFX キット	—	480 XG音色 + 12ドラム/SFX キット	—
効果	タイプ	リバーブ	6種類			
		ブリリアンス	5種類			
	インテリジェント・アコースティック・コントロール (IAC)	○				
	ステレオフィニッシュ オプティマイザー	○ (「CFXグランド」「ベーゼンドルファー」以外のピアノ音色)				

		TA3	TC3	SH3	SC3	
録音/再生 (MIDIソング)	プリセット	内蔵曲数	音色デモ 25 + クラシック曲 50	音色デモ 12 + クラシック曲 50	音色デモ 25 + クラシック曲 50	音色デモ 12 + クラシック曲 50
	録音	曲数	10			
		データ容量	約500 KB / 1曲			
	フォーマット	再生	SMF (フォーマット0、フォーマット1)			
録音		SMF (フォーマット0)				
録音/再生 (オーディオ)	録音時間(最大)	80分 / 1曲				
	フォーマット	再生	WAV (44.1 kHz、16 bit、ステレオ)			
		録音	WAV (44.1 kHz、16 bit、ステレオ)			
ファンク ション	リズム	プリセット	20			
	全体設定	メトロノーム	○			
		テンポ	5~500			
		トランスポーズ	-12~0~+12			
		チューニング	414.8~440.0~466.8 Hz (約0.2 Hz単位)			
	USBオーディオインター フェイス機能	44.1 kHz、24 bit、ステレオ				
Bluetooth 接続	オーディオ	対応プロファイル: A2DP、対応コーデック: SBC				
	MIDI	Bluetooth Low Energy MIDI Specificationに準拠				
	Bluetoothバージョン	5.0				
	無線出力	Bluetooth class 2				
	最大通信距離	約10 m				
	無線周波数	2,401~2,481 MHz				
	最大出力電力	4 dBm				
	変調方式	FHSS				
メモリー / 接続端子	メモリー	内蔵メモリー	約1.3 MB			
		外付けメモリー	USBフラッシュメモリー			
	接続端子	DC IN	24 V		16 V	
		ヘッドホン	ステレオミニ端子(× 2)			
		MIDI	[IN]、[OUT]	—	[IN]、[OUT]	—
		AUX IN	ステレオミニ端子			
		AUX OUT	[L/L+R]、[R] (標 準フォーン端子)	—	[L/L+R]、[R] (標 準フォーン端子)	—
		USB TO DEVICE	○			
		USB TO HOST	○			
電源部	電源アダプター	PA-500		PA-300C		
	消費電力	26 W (電源アダプター PA-500使用時)	17 W (電源アダプター PA-500使用時)	8 W (電源アダプター PA-300C使用時)		
	オートパワーオフ	○				
付属品	取扱説明書、楽譜集「クラシック名曲50選」(TA3/SH3のみ)、 ヘッドホン、ヘッドホンハンガー、ヘッドホンハンガー取り付けネジ、 電源アダプター、電源コード					
別売品	USB無線LANアダプター (UD-WL01)、 電源アダプター (TA3/TC3: PA-500、SH3/SC3: PA-300C)					

本書は、発行時点での最新仕様で説明しています。最新版は、ヤマハウェブサイトからダウンロードできます。

Modified BSD license

COPYRIGHT © 2016 STMicroelectronics

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

1. Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.
2. Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.
3. Neither the name of STMicroelectronics nor the names of its contributors may be used to endorse or promote products derived from this software without specific prior written permission.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE COPYRIGHT HOLDERS AND CONTRIBUTORS "AS IS" AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE COPYRIGHT HOLDER OR CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

Apache License 2.0

Copyright (c) 2009-2018 Arm Limited. All rights reserved.

SPDX-License-Identifier: Apache-2.0

Licensed under the Apache License, Version 2.0 (the License); you may not use this file except in compliance with the License.

You may obtain a copy of the License at
www.apache.org/licenses/LICENSE-2.0

Unless required by applicable law or agreed to in writing, software distributed under the License is distributed on an AS IS BASIS, WITHOUT WARRANTIES OR CONDITIONS OF ANY KIND, either express or implied.
See the License for the specific language governing permissions and limitations under the License.

索引

A			
[AUX IN]端子	54		
AUX INノイズゲート	49		
AUX OUT [R]/[L/L+R]端子	54		
B			
Bluetooth	8, 49, 57		
Bluetoothオーディオ	55		
I			
IAC (インテリジェント・アコースティック・コントロール)	46		
M			
MIDI [IN]/[OUT]端子	60		
MIDI送信チャンネル	48		
MIDIソング	22		
MIDIリファレンス	3		
MIDI録音	27		
U			
[USB TO DEVICE]端子	52		
[USB TO HOST]端子	59		
USBオーディオインターフェース	59		
USB機器	52		
USBフラッシュメモリー	52		
UTILITY (ユーティリティ)	36		
V			
VRM	44, 50		
W			
Wi-Fi	58		
WPS	58		
ア			
アクセスポイントモード	58		
アコースティックモード	15		
アプリ	57		
アリコート	50		
アリコートレゾナンス	44		
イ			
移調 (鍵盤)	44		
移調 (ソング)	47		
インテリジェント・アコースティック・コントロール	46		
イントロ	48		
インフラストラクチャーモード	58		
エ			
エンディング	48		
オ			
オーディオEQ	46		
オーディオソング	22		
オーディオループバック	49, 60		
オーディオ録音	27		
オートパワーオフ	14, 49		
音色	20		
音色一覧	21, 65		
音色デモソング	22, 68		
音律	45		
音量 (オーディオソング)	47		
音量 (全体)	16, 18		
音量 (メトロノーム/リズム)	38, 41, 48		
音量バランス	47		
カ			
外部ソング	22		
キ			
基音	46		
ク			
グランド・エクスプレッション・モデリング	44, 50		
ケ			
言語設定	35		
コ			
コピー (ユーザーソング)	32		
コンピューター	59		
コンピューターとつなぐ	3		
サ			
再生 (ソング)	22, 25		
再生 (リズム)	39		
削除 (ユーザーソング)	33		
シ			
仕様	71		
消音モード	16		
初期化 (USBフラッシュメモリー)	53		
初期化 (楽器)	51		
シンクロスタート	48		
ス			
ステレオフォニックオブティマイザー	17, 46		
ストリングレゾナンス	44		
スマートピアニスト	57		
スマートピアニスト ユーザーガイド	3		
ソ			
ソング	22		
ソング一覧	68		
タ			
タッチ感度	45		
ダンパーノイズ	44, 50		
ダンパーレゾナンス	44		
チ			
チューニング	45		
調律法	45		
テ			
電源	12		
テンポ	25, 37		
ト			
トランスアコースティック設定	47		
トランスアコースティックモード	18		
トランスポーズ (ソング)	47		
トランスポーズ (鍵盤)	44		
ハ			
バージョン	50		
パート	26, 29		
ハーフペダル	45		
バイノーラルサンプリング	17, 46		
バックアップ	48		
バックアップデータ	51		
パン	44		
ヒ			
ピッチ	45		
拍子	37		
フ			
ファンクション	42		
ファンクション一覧	43		
フォーマット (USBフラッシュメモリー)	53		
付属品	3		
プリセットソング	22, 69		
プリリアンス	46		
ヘ			
ベース音	48		
ペアリング	49, 56		
ヘッドホン	16		
ヘッドホンハンガー	17		
ホ			
ボディレゾナンス	44		
ム			
無線LAN	58		
メ			
メッセージ	61		
メトロノーム	36		
ユ			
ユーザーソング	22, 32		
ユーティリティ (UTILITY)	36		
リ			
リズム	39		
リズム一覧	40		
リバーブ	43		
レ			
レイヤーモード	19		
ロ			
ローカルコントロール	48		
録音	27		

保証とアフターサービス

本製品の保証期間は、保証書に記入されたお買い上げの日付から1ヵ年です(現金、ローン、月賦などによる区別はございません)。また保証は、日本国内にてのみ有効といたします。

保証書

保証書をお受け取りのときは、お客様のご住所、お名前、お買い上げの年月日、販売店名などを必ずご確認ください。無記名の場合は無効となりますので、くれぐれもご注意ください。

保証書は大切に保管しましょう

保証書は弊社が、本製品をご購入いただいたお客様に、保証規定に則り、お買い上げの日から向こう1ヵ年の無償サービスをお約束申し上げるものですが、万一紛失なさいますと保証期間中であっても実費を頂戴させていただくこととなります。いつでもご提示いただけますように、十分ご配慮のうえで保管してください。また、後々のサービスに際しての機種別の判別や、サービス依頼店の確認などにも役立ちます。保証期間が切れましても、お捨てにならないでください。

保証期間中のサービス

保証期間中に万一故障が発生した場合、お買い上げ店にご連絡いただきますと、技術者が修理・調整いたします。この際、必ず保証書をご提示ください。保証書なき場合には、サービス料金をいただく場合もあります。また、お買い上げ店より遠方に移転される場合は、事前にお買い上げ店あるいはヤマハにご連絡ください。移転先におけるサービス担当店をご紹介申し上げますと同時に、引き続き保証期間中のサービスを責任をもって行うよう手続きいたします。満1ヵ年の保証期間を過ぎますとサービスは有料になりますが、引き続き責任をもってサービスさせていただきます。なお、補修用性能部品の保有期間は最低8年となっています。そのほかご不明な点などございましたら、下記のヤマハサービス網までお問い合わせください。

本製品についてのお問い合わせは、最寄りのヤマハピアノ特約店／下記のヤマハへ

◇ ピアノの機能や取り扱い、その他本製品全般についてのお問い合わせ

最寄りの特約楽器店、または下記ヤマハお客様コミュニケーションセンターへお問い合わせください。

お客様コミュニケーションセンター ピアノご相談窓口



ナビダイヤル(全国共通番号)

ナビダイヤル

0570-003-808

※固定電話は、全国市内通話料金でご利用いただけます。
通話料金は音声案内で確認できます。

上記番号でつながらない場合は053-460-4835へおかけください。

受付時間 月～金 10:00～17:00 (土曜、日曜、祝日およびセンター指定の定休日を除く)

<https://jp.yamaha.com/support/>

◇ ピアノの修理についてのお問い合わせ

お買い上げ店、または下記ヤマハ修理ご相談センターへお問い合わせください。

ヤマハ修理ご相談センター



ナビダイヤル(全国共通番号)

ナビダイヤル

0570-012-808

※固定電話は、全国市内通話料金でご利用いただけます。
通話料金は音声案内で確認できます。

上記番号でつながらない場合は053-460-4830へおかけください。

受付時間 月～金 10:00～17:00 (土曜、日曜、祝日およびセンター指定の休日を除く)

※名称、住所、電話番号などは変更になる場合があります。

上記お問い合わせ先は、日本国内でご購入いただいたお客様専用です。日本語のみのご案内になりますので、あらかじめご了承ください。

ヤマハ株式会社

〒430-8650 静岡県浜松市中央区中沢町 10-1

© 2022 Yamaha Corporation
2023年12月 発行
MWTOYI-D0



YN730B0